シラバス一覧

(2023年度入学生用)

Syllabus

(For students admitted in 2023)



岐阜大学大学院連合農学研究科

The United Graduate School of Agricultural Science, Gifu University

目 次

Contents

1.	カリキュラムマップ / Curriculum Map・・・・・・・・・・・ 1
2.	連合農学研究科(博士課程)教育課程表 / Curriculum Chart·······
3.	
	(1) 総合農学ゼミナール / Integrated Agricultural Seminar・・・・・・・・・・・16
	(2) 研究者倫理・職業倫理 / Researcher Ethics, Professional Ethics・・・・・・・18
	(3) メンタルヘルス・フィジカルヘルス / Mental Health, Physical Health・・・・・ 20
	(4) 農学特別講義 I (日本語) / Special Lecture on Agriculture I (Japanese) · · · · · · 22
	(5) 農学特別講義 II (英語) / Special Lecture on Agriculture II (English) · · · · · · · 25
	(6) 農学特別講義III / Special Lecture on Agriculture III · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	(7) インターネットチュートリアル / Internet Tutorial・・・・・・・・・・29
	(8) 研究インターンシップ / Research Internship・・・・・・・・・・・31
	(9) 科学英語ライティング / Scientific English Writing・・・・・・・・・・・33
	(10) カルタヘナ議定書 / Research activity and Convention on Biological
	Diversity and its Protocols · · · · · · · · · · · · · · · · · 35
4.	専門分野科目 / Specialized Subject · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	(1) 特別講義 / Special Lecture・・・・・・・・・・・・・・・・38
	(2) 特別ゼミナール / Special Seminar・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	(3) 特別演習 / Advanced Seminar・・・・・・・・・・・・・・・42
	(4) 特別研究 / Thesis Research・・・・・・・・・・・・・・・・・44
	(5) 国際連携食品科学技術専攻 / International Joint Ph.D.Program
	in Food Science & Technology · · · · · · · · 49
	(6) 教育研究分野 / Field of Instruction and Research · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

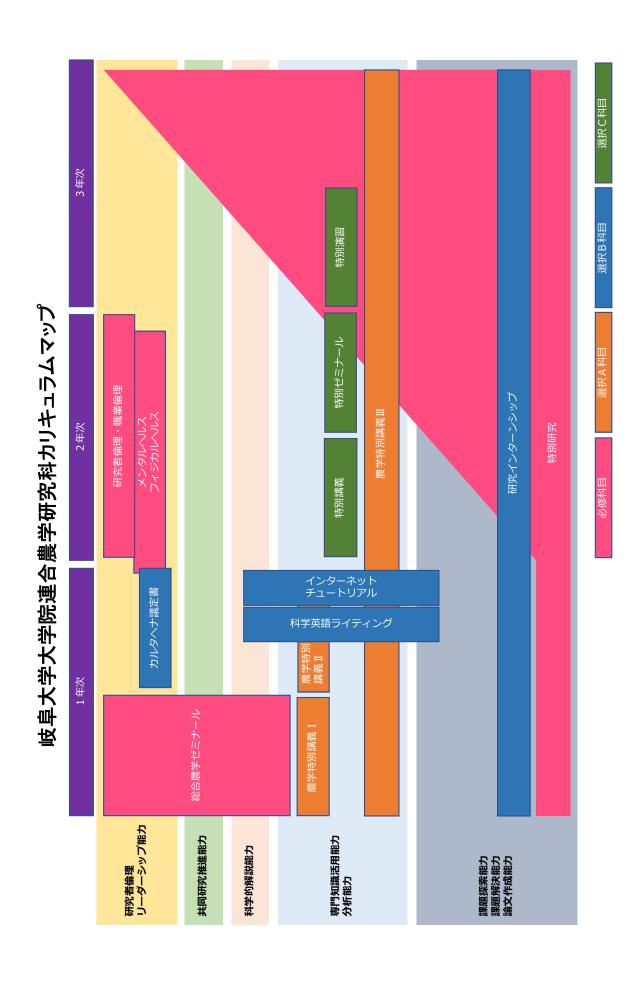
新型コロナウイルス感染症の感染状況等により、シラバスの内容が変更になる場合があります。

その場合は、連合農学研究科ホームページ等にてお知らせします。

Some part of the Syllabus may change depending on the situation of coronavirus.

In that case, we will inform you on the UGSAS webpage etc.

1. カリキュラムマップ Curriculum Map

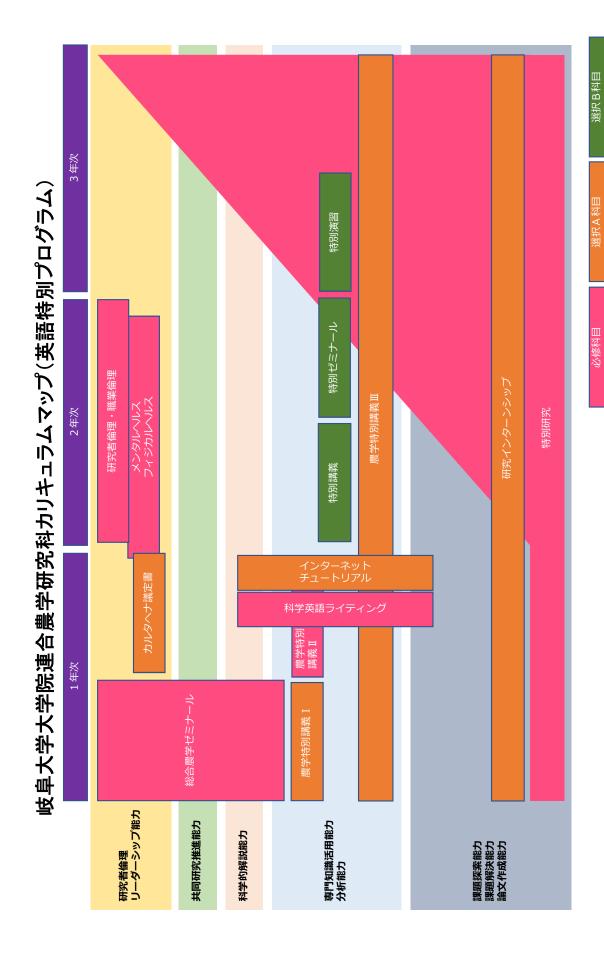


Special Practice Special Seminar Agricultural Special Lecture III Curriculum Map of UGSAS-GU Researcher Ethics Professional Ethics Research Internship Mental Health Physical Health Special Research Special Lecture Internet Tutorial Cartagena Protocol Scientific English Writing Agricultural Special Lecture II 1st Integral Agricultural Seinar Agricultural Special Lecture I Expertise Leveraging & Analysis Ability Challenges Search, Problem-solving & Thesis Ability Cooperative Research and Development capacity Scientific Explanation Ability Researcher Ethics Leadership Ability

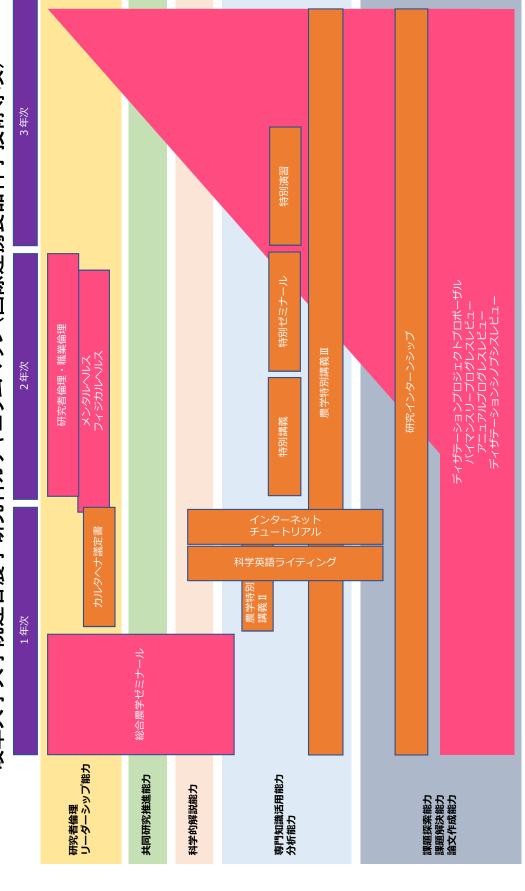
Elective C Sub.

Elective B Sub.

Elective A Sub.

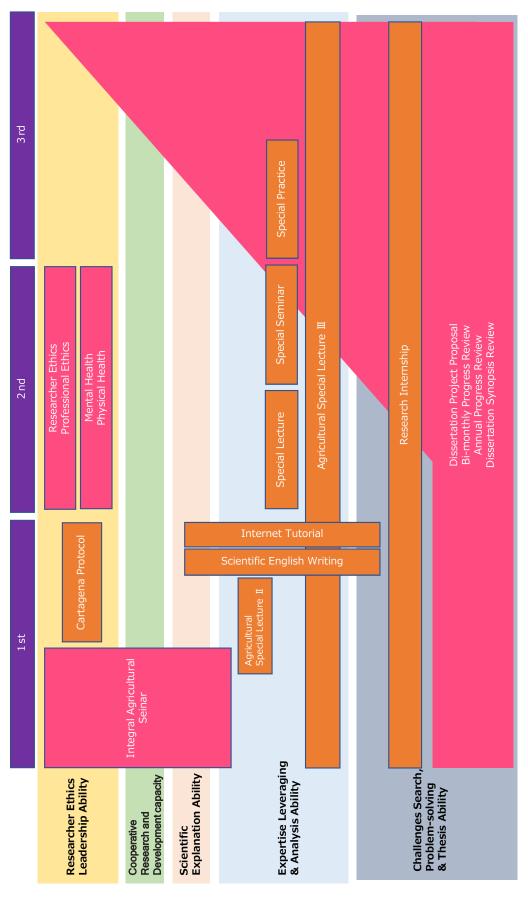


Elective B Sub.



必修科目

(International Joint Ph.D. Program in Food Science & Technology) Curriculum Map of UGSAS, GU





2. 教育課程表 Curriculum Chart

岐阜大学大学院連合農学研究科(博士課程)教育課程表(2023年度入学生)

接合展学ゼミナール	科目			必修							開講予		
### 20	区分	専攻	連合講座		科目名	単位数	時間数	講義方式	担当教員				
### 2 10 10 10 10 10 10 10	\vdash				公人曲光 ビュエー	1	15	v+ 6+			削粉	仮捌	削捌 仮捌
共 通				心体				連続3日間集中		0	(<u>a</u>	
## 通 選択A 選択A 選供特別講義 1 15 遠隔 オムニバス ② ○				处顺			_	連続2日間集中					
世帯の							_	`±175				_	
### 2017/10 1 15 対面・遠隔 オムニバス 2018				<u>'दिस्य ∧</u>		<u> </u>						-	0
選択 B 日本の		共	通	选扒A		· ·		7		0		_	0
選択日 現状日 現状日 現状日 現状日 現状日 現状日 現場を 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日													
本学										0		_	0
カルタへナ議定書				選択B						_	1		
中 上生物生産管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主第1副・第2副指導教員 ③ 連物生産管理学特別活義 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ③ 連物生産管理学特別できません。 植物生産管理学特別できません。 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ④ 連枚生産管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主1間導教員 ④ ④ 連枚生産利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 主1調・第2副指導教員 ④ ● 動物生産利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 主1事教員 ● ● 動物生産利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 主1事連教員 ● ● 連集整備学 選択C 選求整備学特別研究 6 90 対面・遠隔 主指導教員 ● ● 選択C 選求整備学特別研究 6 90 対面・遠隔 主指導教員 ●											()	0
生物生産管理学	<u> </u>			S: 45						0	,=	_	
## 1				必修						1		·年 「	
生度 極物生産管理学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ 事物生産利用学 動物生産利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 主指導教員 ⑥ 動物生産利用学特別選素 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ⑥ 動物生産利用学特別選習 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ 必修 環境整備学特別演習 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ 連環整備学特別演習 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ 連環整備学特別講養 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ 連携整備学特別講習 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ 連携整備学特別演習 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ ② 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ ② 全物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ ② 全物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔		生	植物生産管理学	V22 I.D		<u> </u>					0	_	
連申 必修 動物生産利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 主第1副・第2副附導教員 通年 動物生産利用学特別講義 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ② 動物生産利用学特別できナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ③ 要求の 必修 環境整備学特別研究 6 90 対面・遠隔 主第1副・第2副指導教員 ④ 要求の 必修 環境整備学特別研究 6 90 対面・遠隔 主・第1副・第2副指導教員 ④ 選択C 環境整備学特別研究 6 90 対面・遠隔 第1副指導教員 ④ 連携・物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主・第1副・第2副指導教員 ④ 連携・管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主・第1副・第2副指導教員 ④ 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主 指導教員 ④ 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主 指導教員 ④ 生物資源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 主 指導教員 ④ 生物資源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 主 指導教員 ④ 生物資源利用学特別		物	植物生 産管理学	選択C		<u> </u>						0	
動物生産利用学 動物生産利用学特別講義		生											0
学 動物生産利用学 選択C 選択C 15 対面・遠隔 第 1 副指導教員 ⑤ 動物生産利用学特別でミナール 1 15 対面・遠隔 第 1 副指導教員 ⑥ 動物生産利用学特別演習 1 15 対面・遠隔 第 2 副指導教員 ⑥ 運境整備学 遊修 環境整備学特別研究 6 90 対面・遠隔 主指導教員 ⑥ 環境整備学特別請義 1 15 対面・遠隔 第 1 副指導教員 ⑥ ⑥ 環境整備学特別請義 1 15 対面・遠隔 第 2 副指導教員 ⑥ ⑥ 生物環境管理学特別演習 1 15 対面・遠隔 第 1 副指導教員 ⑥ ⑤ 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第 1 副指導教員 ⑥ ⑤ 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第 2 副指導教員 ⑥ ⑤ 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第 2 副指導教員 ⑥ ⑥ 生物環境管理学特別開業 1 15 対面・遠隔 第 2 副指導教員 ⑥ ⑥ 生物環境管理学特別開業 1 15 対面・遠隔 第 1 副指導教員 ⑥ ⑥ ② ④ ⑥ ○ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●		生		必修								年	1
大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型		学	動物生産利用学		動物生産利用学特別講義	1					0		
中門科目 必修 環境整備学特別研究 6 90 対面・遠隔 主・第・副・第2副指導教員 ⑥ 選択 C 選択 C 環境整備学特別講義 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ⑥ 環境整備学特別できたいした。 環境整備学特別できたいした。 1 15 対面・遠隔 第 1 副指導教員 ⑥ 生物環境管理学特別演習 1 15 対面・遠隔 第 2 副指導教員 ⑥ 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主 1 導教員 ⑥ 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主 1 導教員 ⑥ 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第 2 副指導教員 ⑥ 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第 2 副指導教員 ⑥ 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 東 1 副指導教員 ⑥ 生物環源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 東 1 副指導教員 ⑥ 生物資源利用学特別演習 1 15 対面・遠隔 東 2 副指導教員 ⑥ 生物資源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 東 3 副指導教員 ⑥ 本物資源利用学特別研究 6		,	30100工注17/13	選択C	動物生産利用学特別ゼミナール	1			第1副指導教員			0	
専門科目 生物環境管理学 遊択 C 環境整備学特別诺義 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② ② 建境整備学特別できナール 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 登標管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主 指導教員 ② 通年 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第1副指導教員 ② 通年 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第1副指導教員 ② ● 生物環境管理学特別研究 5 対面・遠隔 第1副指導教員 登標環境管理学特別所定 6 90 対面・遠隔 第1副指導教員 ② ● 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第2副指導教員 ② ● 生物資源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 生物資源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 主指導教員 ② ● 全物資源利用学特別できナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② ● 生物資源利用学特別できナール 2 対象 が表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表					動物生産利用学特別演習	1	15			◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		0	
専門科目 選択C 選択C 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② ② 理境整備学特別できたしい。 環境整備学特別研究 6 90 対面・遠隔 第2副指導教員 ② 必修 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主・第1刷・第2刷指導教員 ③ 通年 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主・第1刷・第2刷指導教員 ② ② 生物環境管理学特別できたしい。 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② ③ 生物環境管理学特別できたしい。 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② ② 生物環境管理学特別できたしい。 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② ③ 生物資源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 第1副指導教員 ② ④ 生物資源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 第1副指導教員 ② ④ 生物資源利用学特別できたしい。 2 2 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2				必修	環境整備学特別研究	6	90	対面・遠隔	主・第1副・第2副指導教員		通年		
大田 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東		#	搢 愔慗 借 学		環境整備学特別講義	1	15	対面・遠隔	主指導教員		0		
専門科目 必修 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第2副指導教員 通年 生物環境管理学 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主・第1副・東2副指導教員 ⑤ 生物環境管理学 生物環境管理学特別講義 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ 生物環境管理学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ 生物資源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ 生物資源利用学特別講義 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ 生物資源利用学特別対きナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ 本物資源 A7-トマテリアル科学特別研究 6 90 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ A7-トマテリアル科学 A7-トマテリアル科学特別できナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥			坏先正佣于	選択C	環境整備学特別ゼミナール	1	15	対面・遠隔	第1副指導教員			0	
科学 生物環境管理学 生物環境管理学特別講義 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ② 生物環境管理学特別対容 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② 生物環境管理学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ③ 生物資源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 主指導教員 ③ 生物資源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 主指導教員 ⑤ 生物資源利用学特別がミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ 生物資源利用学特別がミナール 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ 本物資源 A7-トマテリアル科学特別研究 6 90 対面・遠隔 主・第1副・第2副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別がミナール 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別がミナール 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別がミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別はミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別は学りはミナール 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学・第1・第1副・第2教員 1 1		環		選択し	環境整備学特別演習	1	15	対面・遠隔	第2副指導教員				0
学 生物環境管理学 選択C 生物環境管理学特別ゼミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 生物環境管理学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 生物環境管理学特別研究 6 90 対面・遠隔 主・第1副・第2副指導教員 通年 生物資源利用学特別講義 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ⑤ 生物資源利用学特別がミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ 生物資源利用学特別がミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ 生物資源利用学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ 生物資源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別研究 6 90 対面・遠隔 ま・第1副・第2副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別研究 6 90 対面・遠隔 主・第1副・第2副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別が 2 対面・遠隔 主指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別が 3 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別でミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別でミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別でミナール 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別でミナール 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別でミナール 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別でディートステリアル科学特別でディートステリアル科学特別でディートステリアル科学特別でディートステリアル科学研究 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	専			必修	生物環境管理学特別研究	6	90	対面・遠隔	主・第1副・第2副指導教員		通	年	
選択C 生物環境管理学特別ゼミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② 生物環境管理学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ③ ② ・生物資源利用学特別研究 6 90 対面・遠隔 ま・第1副・第2副指導教員 ④ ④ 生物資源利用学特別講義 1 15 対面・遠隔 主 指導教員 ④ ⑤ 生物資源利用学特別講義 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ④ ⑤ 生物資源利用学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ④ ⑤ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	門		上 物理接答理学		生物環境管理学特別講義	1	15	対面・遠隔	主指導教員		0		
上	科	4	生物環境管理学	選択C	生物環境管理学特別ゼミナール	1	15	対面・遠隔	第1副指導教員			0	
生物資源利用学 生物資源利用学特別講義 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ② 生物資源利用学特別ゼミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② 生物資源利用学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ③ 本マートマテリアル科学 原源 科 学 スマートマテリアル科学特別研究 6 90 対面・遠隔 主指導教員 ③ スマートマテリアル科学特別調義 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ③ スマートマテリアル科学特別でミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ③ スマートマテリアル科学特別でミナール 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥	Ħ				生物環境管理学特別演習	1	15	対面・遠隔	第2副指導教員				0
生物資源利用字 選択 C 生物資源利用学特別ゼミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② 生物資源利用学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ② 生物資源利用学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ③ ② スマートマテリアル科学特別研究 6 90 対面・遠隔 ±・第1副・第2副指導教員 ③ 国年 スマートマテリアル科学 選択 C 選択 C スマートマテリアル科学特別できます。 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ② スマートマテリアル科学特別できます。 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② スマートマテリアル科学特別できます。 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② スマートマテリアル科学特別できます。 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ③ ② スマートマテリアル科学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ③ ③ ○ スマートマテリアル科学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ③ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○				必修	生物資源利用学特別研究	6	90	対面・遠隔	主・第1副・第2副指導教員		通	年	
生物資源利用学特別ゼミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ② 生物資源利用学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ② 必修 スマートマテリアル科学特別研究 6 90 対面・遠隔 生・第1副・第2副指導教員 通年 スマートマテリアル科学特別研究 1 15 対面・遠隔 主・第1副・第2副指導教員 ② スマートマテリアル科学特別できナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ③ スマートマテリアル科学特別できナール 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ③ スマートマテリアル科学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥			上版次语利田 尚		生物資源利用学特別講義	1	15	対面・遠隔	主指導教員		0		
生物資源利用学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥ 必修 スマートマテリアル科学特別研究 6 90 対面・遠隔 主・第1副・第2副指導教員 通年 スマートマテリアル科学 源 科 学 スマートマテリアル科学特別はミナール 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別でミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ⑥ スマートマテリアル科学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ⑥			生物貝源利用子	選択C	生物資源利用学特別ゼミナール	1	15	対面・遠隔	第1副指導教員		◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		
物 資 スマートマテリアル科学 必修 スマートマテリアル科学特別研究 6 90 対面・遠隔 ±・第1副・第2副指導教員 通年 スマートマテリアル科学 スマートマテリアル科学特別講義 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ◎ スマートマテリアル科学特別ゼミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ◎ スマートマテリアル科学特別ゼミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ◎ スマートマテリアル科学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ◎ (② スマートマテリアル科学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ◎ (③)		生			生物資源利用学特別演習	1	15						
スマートマテリアル科学 選択 C スマートマテリアル科学特別講義 1 15 対面・遠隔 主指導教員 ◎ スマートマテリアル科学特別ゼミナール 1 15 対面・遠隔 第1副指導教員 ◎ スマートマテリアル科学特別ゼミナール 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ◎ スマートマテリアル科学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ◎		物	スマートマテリアル科学	必修	スマートマテリアル科学特別研究	6	90	対面・遠隔	主・第1副・第2副指導教員		通	年	•
源		資				1	15				0		
科 ヴ スマートマテリアル科学特別演習 1 15 対面・遠隔 第2副指導教員 ©		源		選択C	スマートマテリアル科学特別ゼミナール	1	15	対面・遠隔	第1副指導教員			0	
		科				1	15						0
		字		必修		6	90				通	年	
			4L 4L 106 Ab 4-11 / 6n 234			1							
生物機能制御子			生物機能制御学	選択C		1					Ť	0	
													0

- ・修了に必要な最低単位数は12単位(必修8単位、選択4単位)とする。 ・各連合講座の特別講義・特別ゼミナール・特別演習は、学生の主・第1副・第2副指導教員の各々が開講する科目である。 開講時期: ②主開講時期、〇受講可能時期

修了に必要な最低修得単位数表

		~~		
科目区分	必修科目		選択科目	
科日区方	必修行日	選択A	選択B	選択C
共通科目	2	*	*	
専門科目	6			*
合計	8		4	

^{*}選択A、選択B、選択Cの科目群からそれぞれ1単位以上、合計で4単位以上修得すること。

Credit Requirements for Successful Completion (at minimum)

Category	Required		Elective Subject	
Category	Subject	Elective A	Elective B	Elective C
Common Subject	2	*	*	
Specialized Subject	6			*
Total	8		4	

^{*} Obtain at least one credit from each Elective group, and make it four (or more) credits in total.

Curriculum Chart (For students admitted in 2023)

				ľ	ľ				olubodoS	9	
Course	Maior Chair	Required	zeidi 8.	Credits	Hours	l ecture Style	l ectilizer	1st year	2nd year	_	3rd year
5		Elective			5			1st 2nd semester semester	1st semester	2nd 1s semester seme	1st 2nd semester semester
			Integrated Agricultural Seminar	1	15	3days intensive or camp seminar	Team Teaching	0			
	_	Rednired	Researcher Ethics, Professional Ethics	0.5	8	2days intensive or	Lecturer in Charge		0		
			Mental Health, Physical Health	0.5	∞	camp seminar	Lecturer in Charge		0		
	_		Special Lecture on Agriculture I (Japanese)	1	15	Remote lecture	Vary by lecture	0	0		0
Cor	Common	Elective A	Special Lecture on Agriculture II (English)	-	15	Remote lecture	Vary by lecture	0	0		0
	_		Special Lecture on Agriculture III	1	15	In person / Remote lecture	Vary by lecture		TBA		
	_		Internet Tutorial	1	15	Internet	Lecturer in Charge	0	0		0
	_		Research Internship	-	15	Visiting	Guest lecturers		TBA		
	_		Scientific English Writing	-	15	In person / Remote lecture	Lecturer in Charge	0	0		0
	_		Research Activity and Convention on Biological Diversity and its Protocols	-	15	In person / Remote lecture	Lecturer in Charge	0			
		Required	Plant Production & Management Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor	İ	Throughout the year	the year	
	Plant Production		Plant Production & Management Special Lecture	-	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
	& Management	Elective C	Plant Production & Management Special Seminar	-	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
Science of	_		Plant Production & Management Advanced Seminar	-	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor			0	0
Biological		Required		9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor		Throughout the year		
	Animal		Animal Resource Production Special Lecture	-	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
	Resource	Elective C	Animal Resource Production Special Seminar	-	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
			Animal Resource Production Advanced Seminar	-	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor			0	0
		Required	Agricultural & Environmental Engineering Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor	Ė	Throughout the year	the year	
	Agricultural &		Agricultural & Environmental Engineering Special Lecture	-	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
	Engineering	Elective C	Agricultural & Environmental Engineering Special Seminar	-	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
Science of)		Agricultural & Environmental Engineering Advanced Seminar	1	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor			0	0
Environment		Required	Management of Biological Environment Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor	İ	Throughout the year	the year	
	Management of		Management of Biological Environment Special Lecture	1	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
	Environment	Elective C	Management of Biological Environment Special Seminar	1	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
			Management of Biological Environment Advanced Seminar	1	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor			0	0
		Required	Utilization of Biological Resources Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor		Throughout the year	the year	
	Utilization of Biological		Utilization of Biological Resources Special Lecture	1	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
	Resources	Elective C	Utilization of Biological Resources Special Seminar	1	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
	_		Utilization of Biological Resources Advanced Seminar	1	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor			0	0
		Required	Smart Material Science Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor		Throughout the year	the year	
Science of	Smart Material		Smart Material Science Special Lecture	-	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
Resources	Science	Elective C	Smart Material Science Special Seminar	-	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
			Smart Material Science Advanced Seminar	1	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor			0	0
		Required	Regulation of Biological Functions Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor		Throughout the year	the year	
	Regulation of		Regulation of Biological Functions Special Lecture	1	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
	Functions	Elective C	Regulation of Biological Functions Special Seminar	1	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
			Regulation of Biological Functions Advanced Seminar	7	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor			O	0
]		

The minimum credits required for completion is 12 (8 credits from required subjects and 4 credits from elective subjects).
 Obtain at least one credit from each Elective group, and make it four (or more) credits in total.
 Schedule indicates the recommended time to take seminars. However, if you wish to change the schedule, please consult your supervisor.

岐阜大学大学院連合農学研究科(博士課程)教育課程表(英語特別プログラム)

科目			必修							開講予定		
区分	専攻	連合講座	選択	科目名	単位数	時間数	講義方式	担当教員	1年次生			3年次生
			~_;,	40 A ## W + N = 1					前期後期	削期	後期	削期 後具
				総合農学ゼミナール	1	15	連続3日間集中		0	6		
			S. 16	研究者倫理・職業倫理	0.5	8	連続2日間集中	担当教員		0		
			必修	メンタルヘルス・フィジカルヘルス	0. 5	8		担当教員		0)	
				農学特別講義 Ⅱ (英語)	1	15	遠隔	オムニバス	0	С		0_
	共	通		科学英語ライティング	1	15	対面・遠隔	担当教員	0	С)	0
		~		農学特別講義 I (日本語)	1	15	遠隔	オムニバス	0	С		0
				農学特別講義Ⅲ	1	15	対面・遠隔	オムニバス		随時	開講	
			選択A	インターネットチュートリアル	1	15	インターネット	担当教員	0	С		0
				研究インターンシップ	1	15	訪問	客員教授ほか		随時	開講	
				カルタヘナ議定書	1	15	対面・遠隔	担当教員	0			
			必修	植物生産管理学特別研究	6	90	対面・遠隔	主・第1副・第2副指導教員		通4	年	
	生	植物生産管理学		植物生産管理学特別講義	1	15	対面・遠隔	主指導教員		0		
	物	但彻工座官理于	選択B	植物生産管理学特別ゼミナール	1	15	対面・遠隔	第1副指導教員			0	
	生			植物生産管理学特別演習	1	15	対面・遠隔	第2副指導教員				0
	産	動物化杂利用学	必修	動物生産利用学特別研究	6	90	対面・遠隔	主・第1副・第2副指導教員		通:	年	
	科学		選択B	動物生産利用学特別講義	1	15	対面・遠隔	主指導教員		0		
		動物生産利用学	選択B	動物生産利用学特別ゼミナール	1	15	対面・遠隔	第1副指導教員			0	
				動物生産利用学特別演習	1	15	対面・遠隔	第2副指導教員				0
			必修	環境整備学特別研究	6	90	対面・遠隔	主・第1副・第2副指導教員		通:	年	
	#	TTT 1本本/		環境整備学特別講義	1	15	対面・遠隔	主指導教員		0		
	生 物	環境整備学	選択B	環境整備学特別ゼミナール	講義 1 15 対面・遠隔 3		第1副指導教員			0		
	環			環境整備学特別演習	1	15	対面・遠隔	第2副指導教員				0
専	境		必修	生物環境管理学特別研究	6	90	対面・遠隔	主・第1副・第2副指導教員		通:	年	
門	科		,_ ,,	生物環境管理学特別講義	1	15	対面・遠隔	主指導教員		0		
科	学	生物環境管理学	選択B	生物環境管理学特別ゼミナール	1	15		第1副指導教員			0	
目		1 /// 3 // 3 /1-1		生物環境管理学特別演習	1	15		第2副指導教員				0
		生物資源利用学	必修	生物資源利用学特別研究	6	90	対面・遠隔	主・第1副・第2副指導教員		通:	年	<u> </u>
			201	生物資源利用学特別講義	1	15	対面・遠隔	主指導教員		0	•	
			選択B	生物資源利用学特別ゼミナール	1	15		第1副指導教員			0	
	#		~_ ;; -	生物資源利用学特別演習	1	15	対面・遠隔	第2副指導教員			0	0
	生		必修	スマートマテリアル科学特別研究	6	90	対面・遠隔	主・第1副・第2副指導教員		通:	年	©
	物 資	スマートマテリアル科学	פווינג	スマートマテリアル科学特別講義	1	15	対面・遠隔	主指導教員		0	_	
	源 科		選択B	スマートマテリアル科学特別ゼミナール	1	15		第1副指導教員			0	
			2,,,,,	スマートマテリアル科学特別演習	1	15	対面・遠隔	第2副指導教員			<u> </u>	0
	学		必修	生物機能制御学特別研究	6	90	対面・遠隔		-	通4	年	⊌ <u> </u>
			という	生物機能制御学特別講義	1	15	対面・遠隔	主·第1副·第2副指導教員 主指導教員		(A)	_	
		生物機能制御学	選択B	生物機能制御学特別ゼミナール	1	15				9	<u></u>	-
			选扒口		1			第1副指導教員		\vdash	0	0
				生物機能制御学特別演習	ı	15	対面・遠隔	第2副指導教員				0

- ・修了に必要な最低単位数は12単位(必修10単位、選択2単位)とする。 ・選択Aおよび選択Bより、それぞれ1単位以上、履修しなけなければならない。 ・各連合講座の特別講義・特別ゼミナール・特別演習は、学生の主・第1副・第2副指導教員の各々が開講する科目である。 開講時期: ◎主開講時期、○受講可能時期

Credit Requirements for Successful Completion for students who admitted English Program(at minimum)

Category	Required	Elective	Subject
Category	Subject	Elective A	Elective B
Common Subject	4	*	
Specialized Subject	6		*
Total	10	2	2

^{*} Obtain at least one credit from each Elective group.

Curriculum Chart (For students admitted English Program)

Course	Major Chair	Required Elective	Subject	Credits	Hours	Lecture Style	Lecturer	1st year	Sche 2nd	year 2nd 1	
			Integrated Agricultural Seminar	-	15	3days intensive or camp seminar	Team Teaching				
		Doginio	Researcher Ethics, Professional Ethics	0.5	8	2days intensive or	Lecturer in Charge)	0	
		na linhau	Mental Health, Physical Health	0.5	80	camp seminar	Lecturer in Charge		9	6	
			Special Lecture on Agriculture II (English)	-	15	Remote lecture	Vary by lecture	0		0	0
Cor	Common		Scientific English Writing	1	15	In person / Remote lecture	Lecturer in Charge	0)	0	0
			Special Lecture on Agriculture I (Japanese)	1	15	Remote lecture	Vary by lecture	0)		0
			Special Lecture on Agriculture III	1	15	In person / Remote lecture	Vary by lecture		TE	TBA	
		Elective A	Internet Tutorial	1	15	Internet	Lecturer in Charge	0)	0	0
			Research Internship	1	15	Visiting	Guest lecturers		TE	TBA	
			Research Activity and Convention on Biological Diversity and its Protocols	1	15	In person / Remote lecture	Lecturer in Charge	0			
		Required	Plant Production & Management Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor	_	Proughor	Throughout the year	
	Plant Production		Plant Production & Management Special Lecture	-	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
	& Management	Elective B	Plant Production & Management Special Seminar	_	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
Science of			Plant Production & Management Advanced Seminar	-	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor			9	0
Production		Required	Animal Resource Production Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor	_	Proughor	Throughout the year	
	Animal Resource		Animal Resource Production Special Lecture	-	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
	Production	Elective B	Animal Resource Production Special Seminar	-	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
			Animal Resource Production Advanced Seminar	1	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor)	0
		Required	Agricultural & Environmental Engineering Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor	T	Proughot	Throughout the year	
	Agricultural &		Agricultural & Environmental Engineering Special Lecture	-	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
	Environmental	Elective B	Agricultural & Environmental Engineering Special Seminar	-	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
Science of			Agricultural & Environmental Engineering Advanced Seminar	1	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor)	0
Environment		Required	Management of Biological Environment Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor	_	Proughor	Throughout the year	
	Management of		Management of Biological Environment Special Lecture	1	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
	Environment	Elective B	Management of Biological Environment Special Seminar	1	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
			Management of Biological Environment Advanced Seminar	_	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor			9	0
		Required	Utilization of Biological Resources Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor	Т	Proughor -	Throughout the year	
	Utilization of Biological		Utilization of Biological Resources Special Lecture	_	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
	Resources	Elective B	Utilization of Biological Resources Special Seminar	_	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
			Utilization of Biological Resources Advanced Seminar	1	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor)	0
		Required	Smart Material Science Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor	T	Proughot	Throughout the year	
Science of	Smart Material		Smart Material Science Special Lecture	1	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
Resources	Science	Elective B	Smart Material Science Special Seminar	-	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
			Smart Material Science Advanced Seminar	1	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor)	0
		Required	Regulation of Biological Functions Thesis Research	9	06	In person / Remote lecture	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co-Academic Supervisor	T	Proughor	Throughout the year	
	Regulation of		Regulation of Biological Functions Special Lecture	1	15	In person / Remote lecture	Primary Academic Supervisor		0		
	Functions	Elective B	Regulation of Biological Functions Special Seminar	1	15	In person / Remote lecture	First Co-Academic Supervisor			0	
			Regulation of Biological Functions Advanced Seminar	-	15	In person / Remote lecture	Second Co-Academic Supervisor		Ц		0

 [•]The minimum credits required for completion is 12 (10 credits from required subjects and 2 credits from elective subjects).
 •You have to get at least 1 credit each for Elective A and Elective B.
 •Schedule indicates the recommended time to take seminars. However, if you wish to change the schedule, please consult your supervisor. Course opens: ◎ mainly this period, ○ Available

岐阜大学大学院連合農学研究科(博士課程)教育課程表 (2023年4月入学生) 岐阜大学・インドエ科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻

			心板								開講予			
科目区分	専攻	連合講座	必修 選択	科目名	単位数	時間数	講義方式	担当教員		次生 後期		次生		次生 後期
		<u>I</u>		総合農学ゼミナール	1	15	連続3日間集中	チームティーチング		俊期	則规	俊期	削刑	俊刑
			必修	研究者倫理・職業倫理	0. 5	8	連続2日間集中	担当教員	(9				
				メンタルヘルス・フィジカルヘルス	0.5	8	建械 2 日间来で	担当教員	•	0				
				農学特別講義 Ⅱ (英語)	1	15	遠隔	オムニバス	(9				
共		通		農学特別講義Ⅲ	1	15	対面・遠隔	オムニバス			随時	開講		
			選択	インターネットチュートリアル	1	15	インターネット	担当教員	(0				
門科			姓代	研究インターンシップ	1	15	訪問	客員教授ほか			随時	開講		
				科学英語ライティング	1	15	対面・遠隔	担当教員						
				カルタヘナ議定書	1	15	対面・遠隔	担当教員	•	0				
				ディザテーションプロジェクトプロポーザル	1	15	対面・遠隔	学生指導委員	0					
			必修	バイマンスリープログレスレビュー	3	45	対面・遠隔	学生指導委員	0	0	0	0	0	0
		・インドエ	2019	アニュアルプログレスレビュー	2	30	対面・遠隔	学生指導委員		0		0		
	科大学グラ 国際連携食 術専攻	ウハティ校 食品科学技		ディザテーションシノプシスレビュー	1	15	対面・遠隔	学生指導委員						0
		20,000		食品科学技術特別講義	1	15	対面・遠隔	指導教員			0	0	0	0
			選択	食品科学技術特別ゼミナール	1	15	対面・遠隔	共同指導教員(IITG)			0	0	0	0
				食品科学技術特別演習	1	15	対面・遠隔	共同指導教員(GU)			0	0	0	0

[・]修了に必要な最低単位数は12単位(必修9単位、選択3単位)とする。 開講時期: ◎主開講時期、○受講可能時期

修了に必要な最低修得単位数表

科目区分	必修科目	選択科目
共通科目	2	2
専門科目	7	3
合計	9	3

Curriculum Chart (For students admitted in 2023 April)

International Joint Ph.D. Program in Food Science & Technology between Gifu University and Indian Institute of Technology Guwahati

								Schedule						
Course Major Chair	Required Elective	Subject		Hours	Lecture Style	Lecturer		year	2nd		3rd			
	, ,	Licciae						1st semester	2nd semester	1st semester	2nd semester	1st semester	2nd semester	
			Integrated Agricultural Seminar	1	15	3days intensive seminar	Team Teaching	(9					
		Required	Researcher Ethics, Professional Ethics	0.5	8	2days intensive seminar	Lecturer in Charge	(9					
			Mental Health, Physical Health	0.5	8	Zuays intensive seminar	Lecturer in Charge	(9					
			Special Lecture on Agriculture II (English)	1	15	Remote lecture	Vary by lecture	(9					
Commor	n		Special Lecture on Agriculture Ⅲ	1	15	In person / Remote lecture	Vary by lecture			TBA				
		Florities	Internet Tutorial	1	15	Internet	Lecturer in Charge	(9					
		Elective	Research Internship	1	15	Visiting	Guest lecturers	Guest lecturers		TBA				
			Scientific English Writing	1	15	In person / Remote lecture	Lecturer in Charge	0						
			Research Activity and Convention on Biological Diversity and its Protocols	1	15	In person / Remote lecture	Lecturer in Charge	0						
		n.	Dissertation Project Proposal	1	15	In person / Remote lecture	Lecturer in Charge	0						
	International Joint Ph.D.		Bi-monthly Progress Review	3	45	In person / Remote lecture	Lecturer in Charge	0	0	0	0	0	0	
	Program in Food Science	Required	Annual Progress Review	2	30	In person / Remote lecture	Lecturer in Charge		0		0			
Specialized Subject	& Technology between Gifu		Dissertation Synopsis Review	1	15	In person / Remote lecture	Lecturer in Charge						0	
	University and Indian Institute		Food Science & Technology Special Lecture	1	15	In person / Remote lecture	Supervisor			0	0	0	0	
	of Technology Guwahati	Elective	Food Science & Technology Special Seminar	1	15	In person / Remote lecture	Supervisor (IITG)			0	0	0	0	
			Food Science & Technology Advanced Seminar	1	15	In person / Remote lecture	Supervisor (Gifu)			0	0	0	0	

[•]The minimum credits required for completion is 12 (9 credits from required subjects and 3 credits from elective subjects). Course opens: ⊚ mainly this period, O Available

Credit Requirements for Successful Completion (at minimum)

Category	Required Subject	Elective Subject
Common Subject	2	3
Specialized Subject	7	3
Total	9	3

3. 共通科目 Common Subject

開講年度	2023
授業科目名	総合農学ゼミナール
授業科目名(英文)	Integrated Agricultural Seminar
担当教員	中野 浩平
科目開講学部·学科	連合農学研究科
科目区分	共通
科目分類	必修科目
対象学年	1年生
開講学期·時間割·教室	通年(集中・随時) その他 未定
授業の形態	講義
単位	1
履修コード	3WKR1010A
備考1	
シラバスURL	https://alss-portal.gifu-u.ac.ip/campusweb/slbssbdr.do?risvunen=2023&semekikn=1&kougicd=3WKR1010A
科目ナンバリング	

授業概要	9月11日~13日に実施します。 Three-days intensive seminar will be held on September 11 to 13,2023.
到達すべき目標	・構成大学の教員、他研究機関の講師、連大の修了生により、共通の研究テーマによる講演を開催します。 ・各学生が研究テーマに沿ったブレゼンテーションを英語で行い、ブレゼンテーション能力を高めることを目標とします。 ・研究交流会を通じて、コミュニケーション能力を身につけることを目標とします。 ・他大学の学生と交流し、研究内容を知ることにより、視野を広げ、創造性を深めることを目標とします。 ・Lectures will be held by professors from UGSAS participating universities, guest lecturers and graduates. ・Each student makes a presentation along each theme in English, and the goal is to improve the presentation skills. ・Students will be able to acquire communication skills through Research Exchange Meetings. ・Students can widen their view and enhance their creativity by knowing other students' research through exchange.
授業計画と 準備学習	本年度の講義内容及び参加方法については、実施要項確定次第(8月初旬頃)、文書及びメールで通知し、連合農学研究科ホームページに 掲載します。 Details will be notified on The United Graduate School of Agricultural Science website and via e-mail one month in advance.
授業の特色	☑ 討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表
	☑ フィールドワーク、インターンシップ、ものづくり等の体験型学習
	☑ 図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用
	✓ ゲストスピーカーの招聘
	□ AIMS-Gifuを活用した授業と学習支援
	☑ レポートの添削や提出物の返却
	□ その他
1	II I

学生のアク ティブ・ラー ニングを 促す取組	・相互審査により、優秀な発表者にはプレセンテーション賞を授与します。 ・The student who gives exce ll ent presentation wil l be awarded based on mutual judgment by attendees.											
使用言語		□ 日本語 ✓ 英語 □ その他										
TA, SA配置												
予定												
	1. 基	基盤的能力に	関する	重点指導項目								
		進:	✓	計画	✓	実行	✓	管理				
基盤的能力		伝:	✓	傾聴	V	発信	✓	把握				
専門的能力		考:	V	課題	V	創造	V	論理				
	2. 専	2. 専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導										
授業時間外 の学習												
成績評価の 方法				ションの品質、事後のレポートにより , the quality of your presentation, an								
到達度評価 の観点	自身の研究計画がよく練られたものであるか、他人にうまく伝えることができたか、他人のプレセンテーションをしっかりと傾聴し正しく評価できたか、について評価します。 The grade score is decided based on following aspects; 1. Whether the research plan itself was well designed, or not. 2. Whether the presenter could make attendees understand by his/her presentation, or not. 3. Whether the student could listen and evaluate the presentation given by other student, or not.											
テキスト												
テキスト (詳細)												
参考文献												
参考文献 (詳細)												
担当教員実 務経験内容 または実践 的教育内容												
実践的授業 内容等												
備考	受課 終了 For Stu	-2023年度の講義は、対面形式にて実施する。 - 受講生は全日程出席しなければならない。 - 終了後、レポートをメールに添付して連合農学係へ提出してもらいます。 For FY2023, this seminar will be conducted by face-to-face. - Students must attend the entire schedule. - Send a report to UGSAS, GU-office via e-mail after this seminar.										

開講年度	2023
授業科目名	研究者倫理·職業倫理
授業科目名(英文)	Researcher Ethics, Professional Ethics
担当教員	中野 浩平
科目開講学部·学科	連合農学研究科
科目区分	共通
科目分類	必修科目
対象学年	2年生/JD1年生
開講学期·時間割·教室	通年(集中・随時) その他 未定
授業の形態	講義
単位	0.5
履修コード	3WKR20308
備考1	
シラバスURL	https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?risvunen=2023&semekikn=1&kougicd=3WKR20308
科目ナンバリング	

授業概要	8/21 Semi	者、技術者が有すべき職業上の倫理規範について概説する。 に実施します。 nar on researcher ethics and professional ethics. seminar will be held on 21th August, 2023.								
到達すべき目標	また、 る利 In red haras	近年、研究者による論文のねつ造や他人のデータの盗用が大きな問題になっている。また、各種のハラスメントのように、研究の場における人間関係についても慎重な対応が求められている。一方、企業研究者が行った発明に対する利益分配について大きな議論を呼んでいる。本講義においては現代の研究者が持つべき倫理規範について概説する。 In recent years, plagiarism and fabrication of theses by researchers is becoming a major problem. Human relations at laboratory such as various harassment is also a sensitive issue that needs to be dealt with carefully. Meanwhile, profit—sharing to a corporate researcher's invention has been a big subject to be discussed as well. In this lecture, the ethics for the researchers will be explained.								
授業計画と 準備学習	2年目に実施する。 構成大学の教員、学外の講師により、研究者倫理に関する講義を聴くことにより、研究者・職業人としての倫理意識を高める。 This seminar will be conducted in the 2nd year. Students can foster awareness of research ethics and professional ethics by attending this lecture.									
授業の特色	✓	討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表								
		フィールドワーク、インターンシップ、ものづくり等の体験型学習								
		図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用								
	\checkmark	ゲストスピーカーの招聘								
		AIMS-Gifuを活用した授業と学習支援								
		レポートの添削や提出物の返却								
		その他								
	╟╙	ての地								

学生のアク ティブ・ラー ニングを 促す取組	座学学習に加え、グループディスカッションを通じて理解を深めると共に、作成したポスターは研究科長室の前に1年間、掲示します。 Students can deepen the understanding of the Researcher Ethics, Professional Ethics through not only the classroom lecture but also the group discussion. The posters produced through the group discussion will be presented in front of Dean's room for 1 year.											
	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□											
使用言語	~	✓ 英語										
使用言語		□ その他										
TA, SA配置 予定												
	1. 基	盤的能力に	関する	重点指導項目								
		進:	~	計画	~	実行	✓	管理				
基盤的能力		伝:	~	傾聴	V	発信	V	把握				
専門的能力		考:	✓	課題	✓	創造	✓	論理				
	2. 専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導											
授業時間外 の学習												
成績評価の 方法				トにより評価します。 and a submitted report.								
到達度評価 の観点	The g	rade score is	decid	ィスカッションやレポートの内容から、 ed based on the degree of student 's sion and the submitted report.								
テキスト												
テキスト (詳細)												
参考文献												
参考文献 (詳細)												
担当教員実 務経験内容 または実践 的教育内容												
実践的授業 内容等												
備考	・実施要項が決まり次第、学生及び主指導教員へ文書で通知し、ホームページに掲載します。 ・授業の実施形態: すべて対面授業で行う。 ・終了後、レポートをメールに添付して達合農学係へ提出してもらいます。 Details will be notified on the UGSAS website and via e-mail. In FY2023, this lecture is held face-to-face. Students must attend the entire schedule. Send a report to UGSAS,GU-office via e-mail after the seminar.											

開講年度	2023
授業科目名	メンタルヘルス・フィジカルヘルス
授業科目名(英文)	Mental Health, Physical Health
担当教員	中野 浩平
科目開講学部·学科	連合農学研究科
科目区分	共通
科目分類	必修科目
対象学年	2年生/JD1年生
開講学期·時間割·教室	通年(集中・随時) その他 未定
授業の形態	講義
単位	0.5
履修コード	3WKR20309
備考1	
シラバスURL	https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?risvunen=2023&semekikn=1&kougicd=3WKR20309
科目ナンバリング	

	-
授業概要	研究者、技術者にとって必要なメンタルヘルス・フィジカルヘルスについて概説する。 8/22に実施します。 Seminar on mental health and physical health. This seminor will be hold on 22th August, 2023.
到達すべき目標	現代人は、大きなストレス社会の中で生きていると言ってよいだろう。学生諸君も、他の社会人と同様な心と体の健康を維持していかなければならない。また、研究者はその職務の特殊性から通常の社会人と違った意味でのストレスを受けているといえる。本講義では、現代の研究者自身の心身の健康を保つための基本的知識について概説する。 We modern people are living in the stressful society. Especially, researchers feel more stress since its particularity. It is necessary for students to keep their mental and physical health. In this lecture, the basic knowledge for maintaining the mental and physical health will be explained.
授業計画と 準備学習	2年目に実施する。 構成大学の教員、学外の講師により、メンタルヘルス・フィジカルヘルスに関する講義を聴くことにより、肉体的・精神的健康の重要性について意 識を高める。 This seminar will be conducted in the 2nd year. Students can foster awareness of mental health and physical health by attending this lecture.
授業の特色	□ 討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表
	☑ フィールドワーク、インターンシップ、ものづくり等の体験型学習
	□ 図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用
	☑ ゲストスピーカーの招聘
	□ AIMS-Gifuを活用した授業と学習支援
	□ レポートの添削や提出物の返却
	□ その他

									_			
学生のアク ティブ・ラー ニングを 促す取組	リラックスの方法, AEDの取り扱い方, 救急処置の仕方などを体験してもらいます。 The students can learn practically how to relax, how to use AED and how to give First Aid.											
		日本語										
使用言語	☑ 英語											
使用言語	一 その他											
TA, SA配置 予定												
	1. 基	基盤的能力に	関する	重点指導項目					1			
		進:		計画	V	実行		管理				
基盤的能力		伝:	✓	傾聴		発信	✓	把握				
専門的能力 		考:	✓	課題		創造		論理				
	2. 専	門的能力や	資質·1	能力に関して、育成を意図する指導								
授業時間外 の学習												
成績評価の方法				トにより評価します。 and a submitted report.								
到達度評価の観点	The g	grade score is	decid	メンタルヘルスの重要性に対する理 ed based on the degree of student' s submitted report.	!解度l s unde	に応じて評定します。 rstanding on the importance of Ment	tal Hea	alth, Physical Health through the				
テキスト												
テキスト (詳細)												
参考文献												
参考文献 (詳細)												
担当教員実 務経験内容 または実践 的教育内容												
実践的授業 内容等												
備考	 ・実施要項が決まり次第、学生及び主指導教員へ文書で通知し、ホームページに掲載します。 ・授業の実施形態: すべて対面授業で行う。 ・終了後、レポートをメールに添付して連合農学係へ提出してもらいます。 ・Details will be notified on the UGSAS website and via e-mail. ・In FY2023, this lecture is held face-to-face. ・Students must attend the entire schedule. ・Send a report to UGSAS,GU-office via e-mail after the seminar. 											

2023
農学特別講義 I (日本語)
Special Lecture on Agriculture I (Japanese)
中野 浩平
連合農学研究科
選択
選択A
1~3年生
通年(集中·随時) その他 未定
講義
1
3WKS10102
https://alss-portal.gifu-u.ac.ip/campusweb/slbssbdr.do?risvunen=2023&semekikn=1&kougicd=3WKS10102

授業概要	6月14日から16日に多地点制御遠隔講義システムを利用した日本語による講義を90分×12コマ実施します。 Remote Lectures in Japanese (90min x 12) will be held on June 14 to 16, 2023.
到達すべき目標	 ・各連大から選出された教員により、多地点制御遠隔講義システムを利用した日本語による講義を行います。 ・各連大から発信される、最先端の講義(日本語)を受講することにより、高度の専門的知識を習得することを目標とします。 ・他連大の学生と講義を共有することにより、広い視野を持つことを目標とします。 ・To conduct remote lectures (in Japanese) by supervisors selected from UGSAS participating universities. ・To acquire advanced expertise through leading egde seminars. ・To take a larger view by sharing seminars with other university students.
授業計會選準備学習	昨年度の内容は下記の通りです。本年度の講義内容及び講師は、実施要項が確定次第(5月頃)、文書及びメールで通知し、連合農学研究科 ボームページに掲載します。 Details will be notified on The United Graduate School of Agricultural Science website and via e-mail about one month before the lecture. The e following is the contents of the previous year. 2022(令和4)年度 講義 1 「海草藻場の生態系機能ーブルーカーボン評価の現在地ー」 講義 3 「協力研究におけるコモンズ」 講義 4 「協力研究におけるコモンズ」 講義 5 「国産麦類生産における研究ニーズ」 講義 5 「国産麦類生産における研究ニーズ」 講義 6 「ヘチマの食品機能性と応用」 講義 7 「国ルぼの魚の生殖生物学」 講義 8 「深海魚はグロテスクな生き物?」 講義 8 「深海魚はグロテスクな生き物・」 講義 1 「植物白まの選集をどの様に知るか・カルシウムシグナルの観点からの研究」 講義 1 「植物色素と遺伝子組換え技術を用いた園芸作物の改良」 調義 11 「防除技術開発を志向した植物病原細菌の病原力機構の解明」 講義 12 「ハナバチ類の生態学」 2022 Lecture1 Ecological functions of seagrasses and seaweeds communities: current status of blue carbon assessment Lecture2 Herbicider-resistant weeds and integrated weed management Lecture3 The commons in studies on cooperation Lecture4 Enzyme Reaction (Structure and Mechanism) Lecture5 Needs of research for wheat and barley production in Japan Lecture7 Reproductive biology in fish living rice field

	Lecture9 How plan Lecture10 Improv	nts ser ement tion of	fish grotesque creatures? nse the coming of winter: A study fro of horticultural crops by plant pigme virulence mechanisms of plant-path logy	nts an	d genetic transformation techniques					
	□ 討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表									
	□ フィールドワ	一 ク、	インターンシップ、ものづくり等の体懸	建学	習					
	□ 図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用									
授業の特色	☑ ゲストスピー	-カ ー 0	り招聘							
以来の特色	☐ AIMS-Gifu₹	□ AIMS-Gifuを活用した授業と学習支援								
	□ レポートのシ	が削や	提出物の返却							
	□ その他									
学生のアク ティブ・ラー ニングを 促す取組	大学だけではカバ Top researchers f	ーでき rom 17 ferenc	17大学)を代表する研究者がテレビまない農学の広い範囲を学ぶことがで 7 member universities of the United (ing system. Students can learn deep	きます Gradua	ted School of Agricultural Science,	Japan	will present their latest work			
	☑ 日本語									
体田豊 語	□ 英語									
使用言語 	□ その他									
TA, SA配置 予定										
	1. 基盤的能力に	関する	重点指導項目							
	進:		計画		実行		管理			
基盤的能力	伝:	✓	傾聴		発信		把握			
専門的能力 	考:	✓	課題		創造	✓	論理			
	2. 専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導									
授業時間外 の学習										
成績評価の 方法			:し、各々のレポート提出で1単位を認 rt of eight seminars, one credit will b							
到達度評価 の観点			載された内容から各講義に対する学 led based on the degree of student's			hroug	h the submitted report.			
テキスト										
テキスト (詳細)										
参考文献										
参考文献 (詳細)										
担当教員実 務経験内容 または実践 的教育内容										

実践的授業 内容等	
備考	 講義は1年内に8コマ分の講義を履修してください。 講義資料は、講義日程の約1週間前に履修申告者に届くようにします。 受講に際して、各構成大学で出席のチェックを受けてください。 2023年度の講義は対面および静岡大学へテレビ会議システムによる中継を行う。また、web会議システムによる受講も可能とする。 レポートは1コマの講義毎に1枚、定められた期日までに提出してください。レポートの用紙はホームページからダウンロードして、メールに添付のうえ連合農学係へ提出してください。 Students must take 8 seminars within a year. Seminar handouts will be delivered about a week before the seminar. Attendance will be taken at each university. In FY2023,this lecture will be provided via web conference system, so each student should attend by own laptop. Submit a report of each seminar by each deadline. Download a report format and send it to UGSAS, GU-office via e-mail.

023
學特別講義Ⅱ(英語)
pecial Lecture on Agriculture II (English)
野 浩平
自合農学研究科
<u>;</u> 通
提択A/EP必修/JD選択
~3年生
毎年(集中・随時)その他 未定
義義
WKS20203
ttps://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?risvunen=2023&semekikn=1&kougicd=3WKS20203

授業概要	11月15日から17日に多地点制御遠隔講義システムを利用して英語による講義を90分×12コマ実施します。 Remote Lectures in English (90min x 12) will be held on November 15 to 17, 2023.
到達すべき 目標	 ・各連大から選出された教員により、多地点制御遠隔講義システムを利用した英語による講義を行います。 ・各連大から発信される、最先端の講義(英語)を受講することにより、高度の専門的知識を習得することを目標とします。 ・他連大の学生と講義を共有することにより、広い視野を持つことを目標とします。 ・To conduct remote lectures (in English) by supervisors selected from UGSAS participating universities. ・To acquire advanced expertise through leading-egde seminars. ・To take a larger view by sharing seminars with other university students.
授準備学習	昨年度の内容は下記の通りです。本年度の講義内容及び講師は、実施要項が確定次第(10月頃)、文書及びメールで通知し、連合農学研究科ホームページに掲載します。 Details will be notified on The United Graduate School of Agricultural Science website and via e-mail one month in advance. The following is the contents of the previous year. 2022(令和4)年度 講義1「魚類筋肉タンパク質の種特異的な熱安定性と季節変化」 講義3「沿岸海域における生物生産システムと環境問題」 講義4「開火機能における化学農業と生物農薬の役割」 講義5「味覚受容体とヒトの健康」 講義5「味覚受容体とヒトの健康」 講義6「熱帯産ヤムイモの生理生態的特性」 講義7「環境変化下における菌類による森林再生に関する生理生態学的研究」 講義8「拮抗微生物を利用した植物病害防除戦略」 講義9「珪境の物理環境・農地土境を巡るが、験・物質動態-」 講義10「昆虫によるゴール形成と植物ホルモン」 講義10「昆虫によるゴール形成と植物ホルモン」 講義11「山地における森林植生と土砂移動の活発さとの関係」 講義12「ラマン分光法の紹介と医生物学への応用」 2022 Lecture1 species-specific thermal stability and seasonal change in fish muscle proteins Lecture2 Function of agricultural irrigation facilities and their maintenace Lecture4 Role of the agrochemicals and biopesticides on the IPM strategy Lecture5 Taste receptor and human health Lecture6 Eco-physiological characteristics of tropical yams Lecture7 Ecophysiological study on forest regeneration by fungi under various environmental changes Lecture8 Strategies for plant disease management using antagonistic microorganisms

	Lecture9 Soil physical environment -Soil water, heat and material dynamics in agricultural land- Lecture10 Induction of insect galls and phytohomones Lecture11 Relationship between forest coverage and sediment transport activities in mountain areas Lecture12 Introduction of Raman spectroscopy and its application in biology and medicine								
授業の特色									
学生のアク ティブ・ラー ニングを 促す取組	す。岐阜大学だけ ⁻ Top researchers fr	ではカル om 17	バーできない農学の広い範囲を学ぶ member universities of the UGSAS	ことか wi ll pr	ステムを通じて、それぞれの専門領域できます。 esent their latest work clearly via T oot be covered by the teaching staffs	√ cont	erencing system by using English.		
使用言語	□ 日本語 □ 英語 □ その他	☑ 英語 □ □							
TA, SA配置 予定									
	1. 基盤的能力に	関する			da 4-		Add: TO		
	進:		計画		実行 発信		把握		
基盤的能力 専門的能力	考:	Y	課題		創造	<u> </u>	論理		
	2. 専門的能力や	資質・f	L 能力に関して、育成を意図する指導						
授業時間外 の学習									
成績評価の方法					きす。提出された8コマ分のレポートのn. Those submitted reports will be ev				
到達度評価 の観点	提出されたレポートに記載された内容から各講義に対する学生の理解度を判定し、評定します。 The grade score is decided based on the degree of student's understanding on each lecture provided through the submitted report.								
テキスト									
テキスト (詳細)									
参考文献									
参考文献 (詳細)									
担当教員実 務経験内容 または実践 的教育内容									
実践的授業 内容等									
備考	·講義資料は、講義 ・受請に際して、各 ・2023年度の講義 ・レポートは1コマの のうえ連合農学係 ・Students must ta ・Seminar handouts ・In FY2023, this le Also it is possible	を は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	毎に1枚、定められた期日までに提 にてください。 eminars within a year. e delivered about a week before the is held face-to-face and relayed to : this lecture by using web conferen	、 ムに。 出して semir Shizud	たる中継を行う。また、web会議システム ください。レポートの用紙はホームペー nar. ka University via video conference s	ージか system	らダウンロードして、メールに添付		

開講年度	2023
授業科目名	農学特別講義Ⅲ
授業科目名(英文)	Special Lecture on Agriculture III
担当教員	中野 浩平
科目開講学部·学科	連合農学研究科
科目区分	共通
科目分類	選択A/JD選択
対象学年	随時
開講学期·時間割·教室	通年(集中・随時) その他 未定
授業の形態	講義
単位	1
履修コード	3WKS10504
備考1	
シラバスURL	https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?risyunen=2023&semekikn=1&kougicd=3WKS10504
科目ナンバリング	

授業概要	義を To co	究科および本研究科の教員が招聘した研究者を講師とし、対面および多地点制御遠隔講義システムを利用して英語による農学に関する講 実施する。 onduct face to face or remote lecture on agricultural science in English by the lecturer who will be invited by the United Graduated School ricultural Science,Gifu University.
到達すべき 目標		から招いた研究者による最新の研究内容を聴講することにより、自分の専門分野に留まらず、広い視点を持つことを目標とする。 goal of this subject is to take a wide field of view beyond one's major by learning the latest study conducted by guest speakers.
授業計画と 準備学習	してす ・上記 分間・本 ・To c Agric In ac	3アジア地域の連携大学で教員として活躍している本研究科の修了生を講師として招聘し、対面および多地点制御遠隔講義システムを利用 英語による90分間 の講義を行う。 3の他に、本研究科教員が招聘した研究者あるいは大学教員を講師とし、対面および多地点制御遠隔講義システムを利用した英語による90 の講義を行う。 7究科が開催する国際シンポジウムに参加することができる。 conduct face to face or remote lecture of 90 minutes in English by the lecturers who were graduated from the United Graduated School of ultural Science (UGSAS), Gifu University and has been working as a teaching staff at the Collaborated University in South Asia. ddition to the above, to conduct face to face or remote lecture of 90 minutes in English by lecturers invited by UGSAS, Gifu University. dents can attend the International Symposium organized by UGSAS, Gifu University.
授業の特色	V	討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表
		フィールドワーク、インターンシップ、ものづくり等の体験型学習
		図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用
	V	ゲストスピーカーの招聘
		AIMS-Gifuを活用した授業と学習支援
		レポートの添削や提出物の返却
		その他

学生のアク ティブ・ラー ニングを 促す取組	きなし Top r	ヽ農学の広い esearchers fr	範囲を om the	·学ぶことができます。 e member universities of IC-GU12 w	i∥ give	こついて英語にて分かりやすく講義し e a talk on their latest work clearly by he teaching staffs in Gifu University o	y usin			
		日本語								
使用言語	V	英語								
K/II E III		□ その他								
TA, SA配置 予定										
	1. 基	盤的能力に	関する	重点指導項目						
		進:		計画		実行		管理		
基盤的能力 専門的能力		伝:	✓	傾聴		発信		把握		
41 1194650		考:	✓	課題		創造		論理		
	2. 専	『門的能力や	資質·育	能力に関して、育成を意図する指導						
_										
授業時間外 の学習										
成績評価の 方法	評価 ⁻ By su	する。				出で1単位を認定する。提出された8 seminars), one credit will be given. Th				
到達度評価 の観点		提出されたレポートに記載された内容から各講義に対する学生の理解度を判定し、評定します。 The grade score is decided based on the degree of student's understanding on each lecture provided through the submitted report.								
テキスト										
テキスト (詳細)										
参考文献										
参考文献 (詳細)										
担当教員実 務経験内容 または実践 的教育内容										
実践的授業 内容等										
備考	・講義 ・国202ポ ・レポ ・The ・Stud ・Desi In thii ・In F	は、本研究系 デンポジウム 3年度の講義 (ートは1コマタ detail conten dents must ta ignated numb, s case, the re Y2023, this le it is possible to	料を修 は、対 は 対 は s of e ke at I er of to cort m cture i to take	iおよび静岡大学へテレビ会議システ 義毎に1枚、定められた期日までに名 each lecture will be announced at an east 8 seminars before graduation. opics presented in international sym nust be submitted to senior tutor at	と。 のレポ ムに。 子コマ y time posiur UGSA Shizuc	ペートを専任教員に提出して1コマ分の よる中継を行う。また、web会議システ の世話役の教員に電子メールの添付 by e-mail, after the schedule will be n are equivalent to one ordinary sem S, Gifu University. ka University via video conference s tem.	・ムに。 †ファイ ・decic inar	よる受講も可能とする。 ′ルにて提出すること。 led.		

開講年度	2023
授業科目名	インターネットチュートリアル
授業科目名(英文)	Internet Tutorial
担当教員	中野 浩平
科目開講学部·学科	連合農学研究科
科目区分	共通
科目分類	選択B/EP選択A/JD選択
対象学年	1~3年生
開講学期·時間割·教室	通年(集中・随時) その他 未定
授業の形態	講義
単位	1
履修コード	3WKS20310
備考1	
シラバスURL	https://alss-portal.gifu-u.ac.ip/campusweb/slbssbdr.do?risvunen=2023&semekikn=1&kougicd=3WKS20310
科目ナンバリング	

授業概要	インターネット上で「Foods and Culture」をテーマに議論する。 The internet group discussion on "Foods and Culture".								
到達すべき目標	「Foods and Culture」の議論を通して、広く国際社会の状況を深く理解し、自らの専門研究の国際的活用を検討できる高度な思考能力を鍛える。 Through the discussions about "Foods and Culture", we understand the international situation of food culture and agriculture and get the higher thinking ability on our own professional study fields.								
授業計画と 準備学習	「Foods and Culture」に関するテーマに対し、参加者はインターネット上のメーリングリストに投稿し、相互に議論する。 About some themes on "Foods and Culture", the members send e-mail reports to the Mailing List in the Internet class, and discuss the themes with classmates.								
授業の特色	 対論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表 フィールドワーク、インターンシップ、ものづくり等の体験型学習 図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用 ゲストスピーカーの招聘 AIMS-Gifuを活用した授業と学習支援 レポートの添削や提出物の返却 その他 メーリングリストを介した学生間のディスカッション Discussing among students via mailing list system 								

学生のアク ティブ・ラー ニングを 促す取組	メーリングリストを介して, 学生間で積極的な議論を行う。 An intensive discussion will be conducted among students via mailing list system								
使用言語	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□								
	V	☑ 英語							
	□ その他								
TA, SA配置 予定									
基盤的能力専門的能力	1. 基盤的能力に関する重点指導項目								
	進:			計画		実行		管理	
	伝:		✓	傾聴	✓	発信	✓	把握	
	考:			課題		創造	✓	論理	
	2. 専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導								
授業時間外 の学習									
成績評価の 方法	投稿内容と投稿回数 Contribution contents and the number of comments								
到達度評価の観点	与えられたテーマについて理解した上で、他者に対して論理的に自身の意見述べ、一方で、他者の意見にも真摯に耳を傾け、議論を高次元に昇華させる能力を測る。 The grade score is decided based on the ability for sublimating discussion into higher dimensions throgh mutual comunications.								
テキスト									
テキスト (詳細)									
参考文献									
参考文献 (詳細)									
担当教員実 務経験内容 または実践 的教育内容									
実践的授業 内容等									
備考	Googleグループ機能を使用して講義は展開する。 開講後、いつでも、どこからでもセミナーに参加できる。英語を共通言語とするが、インターネット上の翻訳ソフトを利用し、母国語に翻訳しながら議論が可能である。 The lecture unfolds with Google group function. After opening of this course, members can participate in this internet class anytime from anywhere. We assume English a common language, but, using some translation softwares in the Internet, you can translate other members' comments into your native language.								

開講年度	2023
授業科目名	研究インターンシップ
授業科目名(英文)	Research Internship
担当教員	中野 浩平
科目開講学部·学科	連合農学研究科
科目区分	共通
科目分類	選択B/EP選択A/JD選択
対象学年	随時
開講学期·時間割·教室	通年(集中・随時) その他 未定
授業の形態	講義
単位	1
履修コード	3WKS10505
備考1	
シラバスURL	https://alss-portal.gifu-u.ac.ip/campusweb/slbssbdr.do?risvunen=2023&semekikn=1&kougicd=3WKS10505
科目ナンバリング	

授業概要	南部アジア教育連携コンソーシアム(ICーGU12)加盟校及びインダストリー部会加盟企業において研究インターンシップを行う。または、他の教育・研究機関が実施するインターンシッププログラムに参加する。 Attend an internship at the member universities and companies of International Consortium of Universities in South and Southeast Asia for the Doctoral Education in Agricultural Science and Biotechnology (IC-GU12) or at other researchorganizations / educational institutions recognized by the UGSAS.									
到達すべき目標	・実地研修を通じて、課題探求能力、研究能力及び問題解決能力を身につける。 ・インターンシップ先の学生や教員、企業研究者との協働・交流を通じて、自己表現力や研究コミュニケーション能力を身につける。 ・To become capable of discovering challenges and solving issues as well as to obtain the ability of creative research through the prectical training. ・To become capable of self-expression and research comunication through exchange with students, lecturers and researchers at the host university and company.									
授業計画と 準備学習	・IC-GU12加盟校またはインダストリー部会加盟企業、その他研究科長が認める教育・研究機関において2週間以上の研究・研修を行う。 ・IC-GU12加盟校で行われる研究会における企画・運営に積極的に関わる。 ・インターンシップ報告会にて活動内容を発表する。 ・Conduct reserch training at the member universities, companies of IC-GU12 or other research organizations / educational institutions approved by the UGSAS for more than 2 weeks. ・Involve actively to planning and running of the reserch seminor held in member universities and companies of IC-GU12. ・Attend an internship organized by research organizations / educational institutions approved by the UGSAS. (Limited to those applied in advance, and approved by the board of directors.) ・Present on internship activeties at the report conference.									
授業の特色	 ✓ 討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表 ✓ フィールドワーク、インターンシップ、ものづくり等の体験型学習 □ 図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用 □ ゲストスピーカーの招聘 									
	│									

		レポートの添	が かいこう	提出物の返却				
		その他						
学生のアク ティブ・ラー ニングを 促す取組	養す ² Deve	る。 lop the compr	rehens	ive skills needed to work as a resear				
		日本語						
	✓	英語						
使用言語		その他						
		はいまして、 はいます。 はいままれます。 はいまます。 はいまます。 はいまます。 はいままままます。 はいまます。 はいままままままます。 はいままままままま						
TA, SA配置 予定								
	2月70							
予定		進:	✓	計画	✓	実行	✓	管理
		伝:	~	傾聴	V	発信	✓	把握
専門的能力 		考:	✓	課題	✓	創造	✓	論理
	2. 専	門的能力や	資質・	能力に関して、育成を意図する指導				
						に基づき専任教員及びメンターが討	価をす	ける。
到達度評価 の観点	究者。 The g	究者として活動していくために必要な総合力を測り、評定します。 The grade score is decided based on the degree of student's total ability as a researcher such as problem finding ability, problem solving ability,						
テキスト								
テキスト (詳細)								
参考文献								
参考文献 (詳細)								
担当教員実 務経験内容 または実践 的教育内容								
実践的授業 内容等								
備考	・他の ・イン Stude •Inter •Stude must)教育・研究機ターンシップの ents who want rndhip informa dents who wis notify the UC	護関で到 の参加 t to ta ation v sh to o SSAS,(ke part in the internship at the mem vill be notified to individuals who regi btain a credit through attending the	予定で ber ur stered	『あり、単位認定を希望するものは、』 iversities and companies must notify I for the subject.	/ the I	Renno−Office in advance.

開講年度	2023
授業科目名	科学英語ライティング
授業科目名(英文)	Scientific English Writing
担当教員	中野 浩平
科目開講学部·学科	連合農学研究科
科目区分	共通
科目分類	選択B/EP必修/JD選択
対象学年	1~3年生
開講学期·時間割·教室	通年(集中・随時) その他 未定
授業の形態	講義
単位	1
履修コード	3WKS20311
備考1	
シラバスURL	https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?risvunen=2023&semekikn=1&kougicd=3WKS20311
科目ナンバリング	

授業概要	学術的な英文ライティングのスキルを向上させることを目的としている。毎週、科学研究論文を作成するための一般的なルールとプロセスを確認していく。プレライティング、トピックの選択法、学位論文、構成、参考文献といったトピックを扱う。 This course is designed to improve your academic English-language writing skills. Each week we will review the general rules and processes involved in producing an scientific research paper. Topics covered include: prewriting, topic selection, thesis statement, organization, and references.									
到達すべき目標	学生自身の研究テーマに関する学術原稿を作成し、執筆するための実践的なライティング方法を学習する。 In this course, students learn practical writing methods for preparing and writing a scientific manuscript on their research theme.									
授業計画と準備学習	本年度の開講日程は開講1ヶ月程度前に告知する。 内容は毎年変更されるが、参考に昨年の例を示す。 Schedule for this year's course will be announced about one month before the class. Contents are changed every year, but the last year's example is shown below for reference. Week 1: Orientation Week 2: Thesis statement and topic sentences Week 3: Sources and Notes Week 5: Introduction Week 5: Introduction Week 6: Body Week 7: Conclusion Week 8: Review									
授業の特色	□ 討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表 □ フィールドワーク、インターンシップ、ものづくり等の体験型学習 □ 図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用									
	プストスピーカーの招聘									

	AIMS-Gifuを活用した授業と学習支援									
	☑ レポートの 🤉	が削え	提出物の返却							
	□ その他									
学生のアク ティブ・ラー ニングを 促す取組										
	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□									
	☑ 英語									
使用言語	□ その他									
TA, SA配置 予定										
	1. 基盤的能力に	関する	重点指導項目							
	進:	✓	計画	V	実行		管理			
基盤的能力	伝:	V	傾聴	V	発信	✓	把握			
専門的能力	考:	✓	課題		創造		論理			
	2. 専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導									
授業時間外 の学習										
成績評価の 方法	Homework (40%); r	esearc	sh paper (60%)							
到達度評価 の観点			最終論文に基づき評価する。 on the quality of the completed assi	gnmen	ts and final paper.					
テキスト										
テキスト (詳細)										
参考文献										
参考文献 (詳細)										
担当教員実 務経験内容 または実践 的教育内容										
実践的授業 内容等										
備考	・遠隔授業の実施 提出された総説論 Science" (http://w ·In FY2023, this le Among the manus United Graduate S	方法 : V 文のう vww.ag cture cripts v chool	(岐阜大)および遠隔(静岡大配置お Webによる双方向同時配信で行う。 か内容が出版にふさわしいと判断さ grsci.jp/ras)に掲載される。 is held face-to-face(Gifu)and via W written by students, good papers car of Agricultural Science, Gifu Univers vide web (http://www.agrsci.ip/ras).	れたも 'eb(Sh n be si	のは、e-Journal誌"Reviews in Agricizuoka). Journal, Reviews	in Agri	cultural Science, published by the			

開講年度	2023
授業科目名	カルタヘナ議定書
授業科目名(英文)	Research Activity and Convention on Biological Diversityand its Protocols
担当教員	中野 浩平
科目開講学部·学科	連合農学研究科
科目区分	共通
科目分類	選択B/EP選択A/JD選択
対象学年	1~3年生
開講学期·時間割·教室	通年(集中・随時) その他 未定
授業の形態	講義
単位	1
履修コード	3WKS20315
備考1	
シラバスURL	https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?risvunen=2023&semekikn=1&kougicd=3WKS20315
科目ナンバリング	

授業概要	貴伝資源や遺伝子組み換え生物の取り扱いに関わる国内外の法令について学ぶ。 Fo study national and international law in relation to development of genetic resource and GMOs.							
到達すべき目標	本講義を通じて、遺伝資源や遺伝子組み換え生物に関わる研究活動をする際に注意しなければならない法令規範を身に付ける。 Understanding the national and international law in relation with the conduct of research that use the genetic resources and GMOs.							
授業計画と 準備学習	本講義では、以下の内容に関する国際・国内での議論を紹介し、遺伝資源の提供国と利用国の win-winの関係に向けて、参加者間で議論をする。 1. 研究活動に関わるコンプライアンス 2. 生物多様性条約 3. 遺伝資源の取得と利益配分に関する名古屋議定書 4. 遺伝子組み換え生物に関するカルタへナ議定書 5. 各国での法規制について We will address the following issues and discuss the win-win relationship between the provider and user country of genetic resources. 1. Compliance related to research activity 2. Convention on Biological Diversity and its Protocols 3. National Legislation of each country							
授業の特色	□ 討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表 □ フィールドワーク、インターンシップ、ものづくり等の体験型学習 □ 図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用 ☑ ゲストスピーカーの招聘 □ AIMS-Gifuを活用した授業と学習支援 □ レポートの添削や提出物の返却							

		□ その他								
学生のアク ティブ・ラー ニングを 促す取組										
		□ 日本語								
使用言語		英語								
使用言語		その他								
TA, SA配置 予定										
	1. 基	盤的能力に	関する	重点指導項目						
		進:		計画		実行		管理		
基盤的能力 専門的能力		伝:	~	傾聴		発信	V	把握		
専門的能力 		考:		課題		創造		論理		
	2. 専	門的能力や資	資質	能力に関して、育成を意図する指導						
授業時間外 の学習										
成績評価の 方法	l .			総合的に評価する。 on including reports.						
到達度評価 の観点	The g	rade score is	decid	ヘナ議定書の重要性に対する理解度 led based on the degree of student's ibmitted report.			/entio	n on Biological Diversity and its		
テキスト										
テキスト (詳細)										
参考文献										
参考文献 (詳細)										
担当教員実 務経験内容 または実践 的教育内容										
実践的授業 内容等										
備考	•In F	Y2023, this le	cture	iおよび静岡大学ヘテレビ会議システ is held face-to-face and relayed to S e this lecture by using web conference	Shizuc	ka University via video conference s				

4. 専門分野科目 Specialized Subject

(1) 特別講義 Special Lecture

科目種別	科目名	必修/選択	単位数	履修年次
Course,	Subject Name	Required/	Credit	Year
Major Chair		Elective		
専門科目	植物生産管理学特別講義	一般:選択 С	1	2年
Specialized Subject	Plant Production & Management Special Lecture	Elective C		前期
Bubject	動物生産利用学特別講義	英語特別プ		2nd year
	Animal Resource Production Special Lecture	ログラム:		1st
	環境整備学特別講義	選択B		semester
	Agricultural & Environmental Engineering Special Lecture	English Program		
	生物環境管理学特別講義	Elective B		
	Management of Biological Environment Special Lecture			
	生物資源利用学特別講義	-		
	Utilization of Biological Resources Special Lecture			
	スマートマテリアル科学特別講義	-		
	Smart Material Science Special Lecture			
	生物機能制御学特別講義			
	Regulation of Biological Functions Special Lecture			
	食品科学技術特別講義	JD:選択		2年前期・後期
	Food Science & Technology Special Lecture	Elective		3年前期·後期
				2nd year
				3rd year
				1st · 2nd
				semester
担当教員	主指導教員 / 指導教			
Supervisor	Primary Academic Supervisor / Super			
授業概要	担当教員の研究分野(別表参照)に関連した内容に			11 1
Seminar	The teacher in charge conducts seminar related in	n his research	field (see	additional
Outline	table).	7 見出出の知識	ナジ目フし、	1、4)テ言田日百
教育目標 Educational	担当教員が行う講義などで、専攻する分野における	の取た場の大地域	を付ると (こりに課題
Goal	発掘能力や解決力を会得する。 The become complete of discovering the llowers and	مادينه مانمميا	a a rrvall a s	, to obtain
Goai	To become capable of discovering challenges and the advanced knowledge in the field.	solving issues	as wen as	s to obtain
教育内容	担当教員が授業内容を計画し、対面にて講義を行う) _		
Content	The teacher in charge plans the course content an		son semin	ar.
評価方法	レポート課題の内容を含め、総合的に評価する。	82, 00 HI POIL		
Evaluation	Comprehensive Evaluation (including report(s))			
Method	,			
備考	特別研究と同時に指導教員が履修者の学位論文の作	成を直接指導で	するもので	 す。
Remarks	The Supervisor instructs students how to write a			

(2) 特別ゼミナールSpecial Seminar

科目種別	科目名	必修/選択	単位数	履修年次				
Course,	Subject Name	Required/	Credit	Year				
Major Chair		Elective						
専門科目	植物生産管理学特別ゼミナール	一般:選択 C	1	2年				
Specialized Subject	Plant Production & Management Special Seminar	Elective C		後期				
	動物生産利用学特別ゼミナール	英語特別プ		2nd year				
	Animal Resource Production Special Seminar	ログラム:		2nd				
	環境整備学特別ゼミナール	選択B		semester				
	Agricultural & Environmental Engineering Special Seminar	English Program						
	生物環境管理学特別ゼミナール	Elective B						
	Management of Biological Environment Special Seminar	210001102						
	生物資源利用学特別ゼミナール							
	Utilization of Biological Resources Special Seminar							
	スマートマテリアル科学特別ゼミナール							
	Smart Material Science Special Seminar							
	生物機能制御学特別ゼミナール							
	Regulation of Biological Functions Special Seminar							
担当教員	第1副指導教員							
Supervisor	First Co-Academic Supervisor							
授業概要	担当教員の研究分野(別表参照)に関連した内容に	ついて講義する	5。					
Seminar	The teacher in charge conducts seminar related in	n his research	field (see	additional				
Outline	table).							
教育目標	担当教員が講義などにより指導を行うことで、履修	修者の専門の研	究分野に~	ついて一定				
Educational	の広がりと深さを持つ知識と研究遂行上の助言を行	い、学位論文の	の作成を支	援する。				
Goal	To provide students with all skills necessary for	the doctoral de	egree by c	onducting				
	seminars etc.							
教育内容	主指導教員が授業内容を計画し、第1副指導教員が	中心となり授業	業を行う。					
Content	The Primary Academic Supervior plans the c	ourse content	and the	First Co-				
	Academic Supervisor gives classes.							
評価方法	レポート課題の内容を含め、総合的に評価する。							
Evaluation	Comprehensive Evaluation (including report(s))							
Method		K S - F. F. F. F. F. F. F. F. F. F. F. F. F.		,				
備考	特別研究と同時に指導教員が履修者の学位論文の作成を直接指導するものです。							
Remarks	The Supervisor instructs students how to write a t	thesis along wi	th Thesis	Research.				

(3) 特別演習 Advanced Seminar

科目種別	科目名	必修/選択	単位数	履修年次
Course,	Subject Name	Required/	Credit	Year
Major Chair		Elective		
専門科目	植物生産管理学特別演習	一般:選択 С	1	3年
Specialized	Plant Production & Management Advanced Seminar	Elective C		前期
Subject	動物生産利用学特別演習	- - - 英語特別プ		3rd year
	Animal Resource Production Advanced Seminar	- ログラム:選		1st
	環境整備学特別演習	transation t		semester
	Agricultural & Environmental Engineering Advanced Seminar	English		Schicster
	 生物環境管理学特別演習	Program		
	Management of Biological Environment Advanced Seminar	Elective B		
İ	生物資源利用学特別演習	_		
	Utilization of Biological Resources Advanced Seminar			
	スマートマテリアル科学特別演習			
	Smart Material Science Advanced Seminar			
	生物機能制御学特別演習			
	Regulation of Biological Functions Advanced Seminar			
	食品科学技術特別演習	JD:選択		2年前期・後期
	Food Science & Technology Advanced Seminar	Elective		3年前期・後期
				2nd year
				3rd year
				1st • 2nd
				semester
担当教員	第2副指導教員 /	共同指導教員		
Supervisor	Second Co-Academic Supervisor	Supervisor		(JD)
授業概要	担当教員の研究分野(別表参照)に関連した内容に		-	
Seminar	The teacher in charge conducts seminar related i	n his research	field (see	additional
Outline	table).		* (\ m\z) \	
教育目標	担当教員が講義などにより指導を行うことで、履修			
Educational Goal	広がりと深さを持つ知識と研究遂行上の助言を行い			
Guai	To provide students with all skills necessary for seminars etc.	the doctoral de	egree by c	onducting
教育内容	主指導教員が授業内容を計画し、担当教員が中心と	かり授業を行う)	
Content	The Primary Academic Supervisor plans the or			econd Co-
Comone	Academic Supervisor gives classes.	ourse content t		ccona co
評価方法	レポート課題の内容を含め、総合的に評価する。			
Evaluation	Comprehensive Evaluation (including report(s))			
Method	,			
備考	特別研究と同時に指導教員が履修者の学位論文の作	成を直接指導す	るもので	す。 演習
Remarks	は、第2副指導教員が配置大学へ中間発表会を聴き			
	ムを利用して行います。			
	The Supervisor instructs students how to write a	thesis along w	ith Thesis	Research.
	The seminar will be conducted by the Second (-	
	Midterm Presentation is held at an affiliated univ	ersity or via T\	7 conferen	ce system.

(4) 特別研究 Thesis Research

科目種別	科目名	必修/選択	単位数	履修年次
Course, Major	Subject Name	Required/	Credit	Year
Chair	-	Elective		
専門科目	植物生産管理学特別研究	必修	6	通年
Specialized Subject	Plant Production & Management Thesis Research	Required		Through out the
Subject	動物生產利用学特別研究			year
	Animal Resource Production Thesis Research			
	環境整備学特別研究			
	Agricultural & Environmental Engineering Thesis Research			
	生物環境管理学特別研究			
	Management of Biological Environment Thesis Research			
	生物資源利用学特別研究			
	Utilization of Biological Resources Thesis Research			
	スマートマテリアル科学特別研究			
	Smart Material Science Thesis Research			
	生物機能制御学特別研究			
	Regulation of Biological Functions Thesis Research			
担当教員	主指導教員名:指定された教員			
Supervisor	第1副指導教員名:指定された教員			
	第2副指導教員名:指定された教員			
	Primary Academic / First Co-Academic / Second Co	-Academic Sup	ervisor	
授業概要	入学時に定めたテーマについて研究を行う。期待さ	れる成果が期間	内に得られ	れ、学位論
Seminar	文が完成できるよう、研究内容について多面的に指	尊する。		
Outline	The guide of academic advisors on the research c	ontents to acco	mplish th	e expected
	scheme within the period, and to complete the thes	is for a doctora	te degree.	
教育目標	在籍する連合講座の専門領域に関する高度な専門的	学識及び技術活	用能力や	分析能力を
Educational	修得するとともに、幅広い境界領域や複合領域に対	応可能な課題探	球能力と	問題解決能
Goal	力を醸成し、博士(農学)に相応しい能力を備える、	ことを目標とす	る。	
	The intention of this subject is to provide the	ne ability wort	thy of the	qualified
	doctorate by instructing thorough knowledge of t	he related rese	earch maj	or and its
	application in the field of agriculture. Learning sk	-		-
	the problem solving skill in a wider boundary and	composite field	ls is also e	xpected to
	nurturer.			
教育内容	修学期間を通じて、入学時に定めたテーマについて			
Content	文の作成を行う。この間、半期毎に中間発表会を実施			
	文研究についてのアドバイスを受ける。以下に、基本			
	導教員と相談の上、研究の進行状況に応じて必要な多	発表内容に変更	してもよい) °
	(1) 研究計画の策定			
	学位論文のための研究課題を設定し、問題解決方法	点、論理的思考法	去、発展的語	課題設定法

を学びながら、より具体的な戦略を立案して研究計画書を作成する。

(2) 研究内容と関連する分野の研究動向の紹介

研究課題と密接に関連する分野における諸問題について、幅広い知識をもって最新情報を科学的に解説する能力を涵養するため、内外の研究動向を総説的に紹介する。その内容を学術論文として公表する方法を学び、実践する。

(3) 研究の進捗状況報告

研究の進捗状況を発表し、指導教員とのディスカッションを通じて結果の考察方法や 論文の組み立て方を学び、研究者や高度専門技術者として必要な実践力を養成する。研 究の追加や方針の変更のアドバイスを受ける。

(4) 学位論文執筆のための発表

これまでの研究成果を取りまとめ、学位論文の執筆予定について発表し、公開論文発 表会および最終審査に向けたアドバイスを受ける。

- (1) Planning of research scheme
- (2) Preparation of a review article in the field closely related to the dissertation content
 - (3) Progress report of research
- (4) Midterm presentation for preparing the open dissertaion defense and the final thesis examination

評価方法

Evaluation Method

指導教員の合議によって総合的に評価する。

Overall evaluation by mutual consent of three academic advisors.

備考 Remarks

- ・中間発表会の開催日、会場については、学生自身が、各指導教員と相談した上で調整 し、その旨を、開催日の1週間前までに所定の様式(日程報告書)にて連合農学係まで届 出なければならない。届出なく開催した場合、当該の発表会は、本科目の中間発表として 認められないので注意すること。
- ・中間発表会の開催日から2週間以内に、必ず、所定の様式(中間発表報告書)によって完了の旨、連合農学係まで届出なければならない。
- ・各学期末までに必ず最低1回、中間発表会を開催しなければならない。ただし、指導教員の都合等(自己都合を除く)で学期末の開催が不可の場合、開催日を弾力的に変更してもよい。ただし、前回実施した中間発表会から4ヶ月以上の期間を設けなければならない。
- ・長期履修生については、各自が設定した履修計画に則り、修了までに 5 回以上の中間発表を実施しなければならない。上記と同様に、中間発表会の開催にあたっては、前回実施した発表会から4ヶ月以上の期間を設けなければならない。
- ・標準修業年限(3年)を超えて学位を申請する者にあっては、3年次後期に別途、これまでの研究成果について発表しなければならない。さらに過年度も引き続き半年毎に発表会を実施し、指導教員に研究の進捗状況を報告しなければならない。同様に、長期履修生においても修業年限を超えた場合は、半年毎に発表会を実施しなければならない。
- ・病気療養など、やむを得ない事情により上記の発表が行えない場合は、速やかに専任 教員に相談すること。
- ・中間発表は公開を原則とするが、内容によっては公開・非公開を主指導教員が判断する。
- ・連合農学研究科で特に指定した学会・シンポジウム等の発表を以て中間発表会に代えることが出来る。どの学会・シンポジウム等が該当するかは年度毎に通知する。ただし、

- この方法で中間発表会とする事が出来るのは年に1回までで、かつ公開論文発表会前の 最後の中間発表会でなく、また指導教員の了承を得ていることが条件となる。
- ・本科目の単位は、博士論文に係る「公開学位論文発表会」および「最終審査」とは独立して、修了時あるいは退学時に一括して認定される。
- The date and site of Mid-term Presentation needs to be arranged in consultation between a student and his/her academic advisors. When scheduled, it should be notified to UGSAS-GU Office more than one week before the date in the prescribed form ("Schedule Report": Format 1). Note that any mid-term presentation without advance notice to UGSAS-GU Office is invalid.
- The completion of Mid-term Presentation should be reported to UGSAS-GU Office in the prescribed form ("Midterm Presentation Report": Format 2) no later than two weeks after the presentation.
- Any student should conduct a mid-term presentation at every term-end. However, if his/her advisor has a rational reason or unavoidable inconvenience that they cannot conduct the presentation at a term end, the date of the presentation can be changed flexibly. Note that any successive two presentations should have more than a 4-month interval.
- Any student under the long-term enrollment system should conduct 5 mid-term presentations to complete the course, in accordance with his/her study plan. Note that any successive two presentations should have more than a 4-month interval.
- Any student, who is not able to complete the course within the standard 6 terms (three years), must make a mid-term presentation at the end of his/her 6th term instead of Open Dissertation Defense. In addition, such a student is required to keep additional mid-term presentations every half a year during his/her enrollment so that the study progress can be updated to his/her academic advisors. As well, any student under the long-term enrollment system is required to keep additional mid-term presentations every half a year while he/she continues to study over the set period of time.
- Any student, who is not able to conduct a mid-term presentation due to an unavoidable condition or some inconvenience such as sick leave, should consult with the senior tutor of UGSAS-GU first.
- Mid-term presentations shall be principally open to the public; however, the major academic advisor is authorized to determine if the presentation is open or closed depending on confidentiality level of presentation contents.
- All the credits earned by a student are recognized/approved at his/her course completion or course withdrawal. Those credits are processed independently of Open Dissertation Defense and Final Evaluation relevant to Doctoral Dissertation.
- It can be replaced a midterm presentation with presentations at international symposiums specifically designated by UGSAS.

We will notify you of which academic conference/symposium is applicable per year. Note that this method can be used as a midterm presentation only once a year, not the last midterm presentation before the open defense.

It must have consent by supervisor and co-supervisors. (Main and co-supervisors confirm research progress by presentation or manuscript in advance.)

(5) 国際連携食品科学技術専攻 International Joint Ph.D. Program in Food Science & Technology

科目種別	科目名	履修形態	単位数	履修年次
Course, Major Chair	Subject Name	Type	Credit	Year
専門科目 Jointly-Designed Seminar	ディサテーションプロジェクトプロポーザル Dissesrtation Project Proposal	必修 Required	1	1 1st year

担当講師名 Lecturer	学生指導委員会の教員
授業概要 Seminar Outline	研究計画に対する指導と評価を行う。
教育目標 Educational Goal	デザイン思考のプロセスに基づいた研究リテラシー,特に研究遂行に必要な活動「研究背景の理解」,「研究目的の設定」,「研究計画の立案」を明確化し,これらをデザイン思考のプロセスである「共感(観察)」,「問題定義」,「アイディア創出」,「プロトタイプ」,「検証」,「改良」に当てはめることで,研究能力,すなわち研究課題を設定する能力及び解決する能力,さらに学術論文として出版化できる能力を向上することを目標とする。
教育内容 Content	1年目にセミナー形式で実施する。学生は研究を始めるにあたり、何が解決すべき問題で、何を解明すべきなのか等、研究の背景について体系的に理解する。それに基づき研究の目的を設定し、研究計画を策定する。 ビデオ会議システムの利用などにより学生指導委員会を構成する両大学の教員が出席の下、学生は研究計画について発表、質疑応答を行う。
評価方法 Evaluation Method	学生毎に設置される学生指導委員会が評価する。
備 考 Remarks	学生指導委員会は、以下の教員で組織される。 1. 委員長(主大学教員) 2. 共同指導教員1(主大学) 3. 共同指導教員2(副大学) 4. 共同指導教員3(主大学)(必要に応じて設定) 5. 専攻内の教員(主大学) 6. 専攻内の教員(副大学) 7. 他専攻の教員(主大学)

Course, Major Chair	Subject Name	Туре	Credit	Year
Specialized subject	Dissesrtation Project Proposal	Required	1	1st year

Lecturer	Faculty members in the Doctoral Committee
Seminar Outline	There is both advising on and evaluation of research plans.
Educational Goal	The goal is to improve research literacy based on design thinking. In particular, this refers to improving research skills—that is, the ability to set research topics, solve problems, and publish results as academic papers—by clearly understanding the research background, setting research objectives, and developing a research plan, which are necessary to conduct the research. These are equivalent to the "empathize (observation)," "define problem," "ideate," "prototype," "test," and "improvement" of the design thinking process.
Content	For the first year, the class takes the form of a seminar. When students start to conduct their research, they gain a systematic understanding of the research background, which includes what problems need to be solved and what should be clarified. Taking this into consideration, students set research objectives and develop research plans. Faculty members from both universities who compose the Doctoral Committee participate in any of various ways, such as via video conference, and students present their research plans and respond to questions.
Evaluation Method	Doctoral Committee evaluates each student.
Remarks	The Doctoral Committee consists of i . A faculty member other than the supervisor from Home institution, -Chairperson ii . Joint supervisor-1 from Home Institution iii . Joint supervisor-2 from Partner Institution iv . Joint supervisor-3 from Home Institution (if any) v . A faculty member involved in the JD Program of Home Institution vi . A faculty member from Partner Institution vii . A faculty member from Other Department of Home Institution

科目種別	科目名	履修形態	単位数	履修年次
Course, Major Chair	Subject Name	Type	Credit	Year
専門科目 Jointly-Designed Seminar	バイマンスリー プログレス レビュー Bi-monthly Progress Review	必修 Required	3	1~3 1st-3rd year

担当講師名 Lecturer	共同指導教員1(主大学)、共同指導教員2(副大学)
授業概要 Seminar Outline	研究の進捗に対する指導と評価を行う。
教育目標 Educational Goal	デザイン思考のプロセスに基づいた研究リテラシーのうち,特に研究遂行に必要な活動「研究計画の立案」及び「研究計画の遂行」を明確化し,これらをデザイン思考のプロセスである「共感(観察)」、「問題定義」、「アイディア創出」、「プロトタイプ」、「検証」、「改良」に当てはめることで研究能力、すなわち研究課題を設定する能力及び解決する能力、さらに学術論文として出版化できる能力を向上することを目的とする。
教育内容 Content	4学期制の各学期に1回、セミナー形式で実施する。学生は研究の進捗を共同指導教員に報告し、問題点や今後の計画などを話し合う。セミナー形式で当該学生が滞在する大学にて行う。ビデオ会議システムを用いて入学した大学の指導教員、連携外国大学の指導教員が参加する。
評価方法 Evaluation Method	共同指導教員が評価する。
備 考 Remarks	

Course, Major Chair	Subject Name	Туре	Credit	Year
Specialized subject	Bi-monthly Progress Review	Required	3	1st-3rd year

Lecturer	Joint supervisors 1 (home institution) and 2 (partner institution)
Seminar Outline	Guidance is given on and evaluations are made of progress with the research.
Educational Goal	The goal is to improve research literacy based on design thinking. In particular, this refers to improving research skills—that is, the ability to set research topics, solve problems, and publish results as academic papers—by developing a research plan and carrying out it, which are necessary to conduct the research. These are equivalent to the "empathize (observation)," "define problem," "ideate," "prototype," "test," and "improvement" of the design thinking process.
Content	This is a seminar held once each quarter. Students report on the progress that they have made with their research to their joint supervisors and discuss issues such as problems and future plans. This is a seminar conducted at the university students are enrolled in. Joint Supervisors from Home and Partner Institutions participate via video conference
Evaluation Method	Joint supervisors evaluate.
Remarks	

C	科目種別	科目名	履修形態	単位数	履修年次
	Course, Major Chair	Subject Name	Type	Credit	Year
	専門科目 Jointly-Designed Seminar	アニュアル プログレス レビュー Annual Progress Review	必修 Required	2	1~2 1st-2nd year

担当講師名 Lecturer	学生指導委員会の教員
授業概要 Seminar Outline	1年間の研究進捗に対する随時指導と評価を行う。
教育目標 Educational Goal	デザイン思考のプロセスに基づいた研究リテラシーのうち,特に研究遂行に必要な活動「研究成果の公表」及び「研究成果の社会還元」を明確化し,これらをデザイン思考のプロセスである「共感(観察)」,「問題定義」,「アイディア創出」,「プロトタイプ」,「検証」,「改良」に当てはめることで研究能力, すなわち研究課題を設定する能力及び解決する能力,さらに学術論文として出版化できる能力を向上することを目的とする。
教育内容 Content	1年に1回, セミナー形式で実施する。学生は研究の進捗を報告し、質疑応答を行う。 ビデオ会議システムの利用などにより学生指導委員会を構成する両大学の教員が出 席の下、研究の進捗を報告、質疑応答を行う。
評価方法 Evaluation Method	学生毎に設置される学生指導委員会が評価する。
備 考 Remarks	学生指導委員会は、以下の教員で組織される。 1. 委員長(主大学教員) 2. 共同指導教員1(主大学) 3. 共同指導教員2(副大学) 4. 共同指導教員3(主大学)(必要に応じて設定) 5. 専攻内の教員(主大学) 6. 専攻内の教員(副大学) 7. 他専攻の教員(主大学)

Course, Major Chair	Subject Name	Туре	Credit	Year
Specialized subject	Annual Progress Review	Required	2	1st-2nd year

Lecturer	Faculty members in the Doctoral Committee
Seminar Outline	Guidance is provided on and evaluations are made of progress that students have made with their research during the year.
Educational Goal	The goal is to improve research literacy based on design thinking. In particular, this refers to improving research skills—that is, the ability to set research topics, solve problems, and publish results as academic papers—by publishing research findings and returning the profits of research findings to society, which are necessary to conduct the research. These are equivalent to the "empathize (observation)," "define problem," "ideate," "prototype," "test," and "improvement" of the design thinking process.
Content	This seminar is held once a year. Students report on the progress they have made with their research and answer questions. Faculty members from both universities who compose the Doctoral Committee attend in any of various ways, such as via video conference, and students report on the progress they have made with the research and respond to questions.
Evaluation Method	Doctoral Committee evaluates each student.
Remarks	The Doctoral Committee consists of i . A faculty member other than the supervisor from Home institution -Chairperson ii . Joint supervisor-1 from Home Institution iii . Joint supervisor-2 from Partner Institution iv . Joint supervisor-3 from Home Institute (if any) v . A faculty member involved in the JD Program of Home Institution vi . A faculty member from Partner Institution vii . A faculty member from Other Department of Home Institution

科目種別	科目名	履修形態	単位数	履修年次
Course, Major Chair	Subject Name	Type	Credit	Year
専門科目 Jointly-Designed Seminar	ディサテーション シノプシス レビュー Dissertation Synopsis Review	必修 Required	1	

担当講師名 Lecturer	学生指導委員会の教員
授業概要 Seminar Outline	博士課程における研究内容に対する評価及び博士論文作成に向けての指導と助言を行う。
教育目標 Educational Goal	デザイン思考のプロセスに基づいた研究リテラシーのうち,特に研究遂行に必要な活動「研究成果の公表」及び「研究成果の社会還元」を明確化し,これらをデザイン思考のプロセスである「共感(観察)」、「問題定義」、「アイディア創出」、「プロトタイプ」、「検証」、「改良」に当てはめることで研究能力、すなわち研究課題を設定する能力及び解決する能力、さらに学術論文として出版化できる能力を向上することを目的とする。
教育内容 Content	3年目にセミナー形式で実施する。 ビデオ会議システムの利用などにより学生指導委員会を構成する両大学の教員が出 席の下、 博士入学以降に得られた研究成果、国際論文の公表状況、どのように博士論文を取り まとめるのかについて発表、質疑応答を行う。
評価方法 Evaluation Method	学生毎に設置される学生指導委員会が評価し、博士論文提出の可否を決定する。
備 考 Remarks	学生指導委員会は、以下の教員で組織される。 1. 委員長(主大学教員) 2. 共同指導教員1(主大学) 3. 共同指導教員2(副大学) 4. 共同指導教員3(主大学)(必要に応じて設定) 5. 専攻内の教員(主大学) 6. 専攻内の教員(副大学) 7. 他専攻の教員(主大学)

Course, Major Chair	Subject Name	Туре	Credit	Year
Specialized subject	Dissertation Synopsis Review	Required	1	3rd year

Lecturer	Faculty members in the Doctoral Committee
Seminar Outline	The content of the doctoral thesis research is evaluated, and guidance and advice regarding writing the doctoral thesis is provided.
Educational Goal	The goal is to improve research literacy based on design thinking. In particular, this refers to improving research skills—that is, the ability to set research topics, solve problems, and publish results as academic papers—by publishing research findings and returning the profits of research findings to society, which are necessary to conduct the research. These are equivalent to the "empathize (observation)," "define problem," "ideate," "prototype," "test," and "improvement" of the design thinking process.
Content	This is a third-year seminar. Faculty members from both universities who compose the Doctoral Committee attend in any of various ways, such as via video conference, and students report on the results of research they conducted after entering the doctoral program, presentations of international papers, and how they are writing their doctoral thesis and handle questions.
Evaluation Method	Doctoral Committee evaluates each student and decides whether he/she can start writing doctoral thesis.
Remarks	The Doctoral Committee consists of i . A faculty member other than the supervisor from Home institution -Chairperson ii . Joint supervisor-1 from Home Institution iii . Joint supervisor-2 from Partner Institution iv . Joint supervisor-3 from Home Institute (if any) v . A faculty member involved in the JD Program of Home Institution vi . A faculty member from Partner Institution vii . A faculty member from Other Department of Home Institution

(6) 教育研究分野

Field of Instruction and Research

主指導教員となり得る者の教育研究分野一覧

市力	本 人 誰 应	主指導教員		教	育 研 究 分 野
専攻	連合講座	氏名(所属)	名	称	内容
		山 田 邦 夫 (岐阜大学)	花 卉 園	芸 学	花卉園芸植物の品質および生産性向上に関する 植物生理学的研究
		松 原 陽 一 (岐阜大学)	野 菜 園	芸 学	野菜に関する生物生理学的理論と、持続可能型・ 環境ストレス耐性型栽培への応用
41-		鈴 木 克 己 (静岡大学)	施設野菜	園芸学	施設園芸での野菜の高品質安定生産に関する研究
生		切 岩 祥 和 (静岡大学)	野 菜 園	芸 学	野菜栽培における環境ストレスの制御とその利用
		八 幡 昌 紀 (静岡大学)	果樹園	芸 学	果樹の結実生理および染色体工学的手法を用い た高品質果樹の開発
物		松 本 和 浩 (静岡大学)	園芸イノベー	ション学	園芸植物の高付加価値化に関する生理生態学的 研究
		中 塚 貴 司 (静岡大学)	花 卉 園	芸 学	花卉園芸形質の分子生物学研究
生		嶋 津 光 鑑 (岐阜大学)	植物環境	制御学	植物生産に関する環境制御技術の開発および環境 制御技術の植物科学研究への応用
	植物生産管理学	大場伸也(岐阜大学)	植物生育	診断学	資源植物の遺伝的・生化学的解析と耕地生態学に よる生産技術の改善
産		山 根 京 子 (岐阜大学)	植物遺伝	育種学	植物の遺伝資源評価,保全,利用および進化に関 する研究
		○ 中野浩平(岐阜大学)	ポストハ <i>ー</i> 工	ベスト 学	及上70.5 阳黄70.14. 工間15. 旧水气/0.2012 17. 17. 17. 17.
		加 藤 雅 也 (静岡大学)	収穫後生	理学	収穫後の園芸作物における生理学・生化学・分子 生物学
科		李	農業経	済 学	地域農業経済と農業政策に関する理論的・実証的 研究
		柴 垣 裕 司 (静岡大学)	農業経	営 学	農業協同組合及び農業金融に関する理論と応用
学		梶 川 千 賀 子 (岐阜大学)	農業経	済 学	農産物需給構造と食品産業構造に関する計量経 済学的研究
		THAMMAWONG, Manasikan (岐阜大学)	ポストハ ー 生理学	ベスト	食品の品質変化メカニズム解明と品質保持技術開 発
		⁽ * ⁾ 蔦 瑞樹 (岐阜大学)	非破壊計	- 測 学	分光分析法及びデータマイニングによる食品・青果 物の品質推定法

^(*) 客員教授であり、主な研究活動の場は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門 (連携機関)である。

^{◎:}国際連携食品科学技術専攻の指導資格も兼ねる。

±-74	\\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	主指導教員	教	育 研 究 分 野
専攻	連合講座	氏名(所属)	名 称	内 容
		楠 田 哲 士 (岐阜大学)	動物保全繁殖学	希少野生動物の繁殖生理生態と動物園学に関する 教育研究
生		笹 浪 知 宏 (静岡大学)	動物生理化学	鳥類の卵膜形成および受精の分子機構に関する 研究
物		与 語 圭一郎 (静岡大学)	動物生殖生理学	哺乳動物の生殖科学と生殖細胞の形成・分化機構
生		岩 澤 淳 (岐阜大学)	動物内分泌化学	動物の内分泌と代謝に関する生化学的研究
産	動物生産利用学	松 村 秀 一 (岐阜大学)	動物遺伝学	動物の遺伝的多様性と進化に関する研究
科		八代田 真 人 (岐阜大学)	動物栄養生態学	反芻家畜の栄養生態とその家畜生産への応用
		山 本 朱 美 (岐阜大学)	動物栄養学	単胃家畜の効率生産と栄養生理に関する研究
学		二 宮 茂 (岐阜大学)	動物管理学	応用動物行動学とアニマルウェルフェア
		古屋康則(岐阜大学)	動物生殖生物学	魚類の生殖器官の機能形態と繁殖行動から見た生 殖様式の進化に関する研究、および増養殖への応 用
		平松研(岐阜大学)	環境水理学	農村地域の水環境整備と水域生態系保全に関する 研究
		大 西 健 夫 (岐阜大学)	水 文 学	地球上の水・物質循環の機構および人間活動がそ れに及ぼす影響の評価
生	勿 環境整備学 意	伊 藤 健 吾 (岐阜大学)	水圏環境学	水田における水環境の制御と水田生態系の保全
物環		西 村 眞 一 (岐阜大学)	農業造構学	農業水利構造物の安全性と有効利用に関する研究
境 科		西 山 竜 朗 (岐阜大学)	農業施設工学	農業用ダムの力学
学		今 泉 文 寿 (静岡大学)	砂防工学	山地における土砂と水の移動過程と流域管理
		勝 田 長 貴 (岐阜大学)	地球環境システム学	湖沼の水文調査と堆積物の分析を通じた環境シス テム変動特性の評価

#T#	本人	主指導教員	教	育 研 究 分 野
専攻	連合講座	氏名(所属)	名 称	内容
		松 井 勤 (岐阜大学)	作物学	持続可能な作物生産に関する研究
		土 田 浩 治 (岐阜大学)	昆虫生態学	昆虫個体群内の遺伝的変異性に関する研究
		向 井 貴 彦 (岐阜大学)		生物の地理的多様性の形成と維持機構および保全 に関する研究
		田 上 陽 介 (静岡大学)		昆虫共生系を利用した害虫の生物的防除技術開 発
生		笠 井 敦 (静岡大学)	生物的防除学生	害虫管理における種間相互作用に関する研究
		堀 池 徳 祐 (静岡大学)	分子進化学	ゲノム情報を用いた分子進化学研究
物		◎ 須 賀 晴 久 (岐阜大学)	分 4 秭 卿 馮 坤 字	植物病原菌の進化、生態ならびに病原性機構に関 する研究
		山 下 雅 幸 (静岡大学)	生態遺伝学	外来植物および雑草の侵入生態学的研究
~==		稲 垣 栄 洋 (静岡大学)	l l'	農村の生物多様性評価と雑草の生態的管理に関 する研究
環		川 窪 伸 光 (岐阜大学)	植物進化生態学	顕花植物の形態進化と送粉生態学的研究
	生物環境管理学	大 塚 俊 之 (岐阜大学)	生態系生態学	生態系の炭素循環と炭素吸収能力に関する研究
境	土初垛克目生于	飯 尾 淳 弘 (静岡大学)		森林群落の光合成と蒸散の生理生態学的プロセス に関する研究
		村 岡 裕 由 (岐阜大学)		植物個体から生態系スケールに至る生理生態学的 研究
科		魏 永 芬 (岐阜大学)	環境計測学	流域における物質動態の計測評価
		安 藤 正 規 (岐阜大学)		森林生態系における動植物の相互作用と保護管理 に関する研究
学		富 田 涼 都 (静岡大学)	環境社会学	環境と社会の持続的なガバナンスについての研究
		三 宅 崇 (岐阜大学)		動植物の種間相互作用とそれに伴う形質進化に関 する研究
		斎 藤 琢 (岐阜大学)	生物環境物理学	陸域生態系における物質・熱循環に関する研究
		森 部 絢 嗣 (岐阜大学)	野生動物資源学	野生動物の保全と資源利用に関する研究
		広 田 勲 (岐阜大学)		東南アジアおよび日本における植物資源利用と生 業システムに関する研究
		田 中 貴 (岐阜大学)	作物裁培学	作物生産の高位安定化に向けた栽培技術の開発
		岡 本 朋 子 (岐阜大学)		生物間相互作用を介在する化学物質の生態的役 割に関する研究

◎:国際連携食品科学技術専攻の指導資格も兼ねる。

市北	連合講座	主指導教員	教	育 研 究 分 野
専攻	理 行 神 座	氏名(所属)	名 称	内容
		◎ 光 永 徹(岐阜大学)	植物成分機能化学	植物二次代謝成分の構造解析と生理機能の解明 に関する研究
		河 合 真 吾 (静岡大学)	リグニン生化学	リグニン及び関連化合物の生合成および生分解と その有効利用
		山 田 雅 章 (静岡大学)	高分子複合材料学	反応性PVAを使用した環境適応形木材用接着剤の 開発等、木材接着、木質材料の製造、木材の化学 加工分野の研究
生		小 島 陽 一 (静岡大学)	木質バイオマス科学	木質バイオマス資源の有効活用に関する研究
		小 林 研 治 (静岡大学)	木質構造学	木質構造物の耐震性能に関する研究
		岩 本 悟 志 (岐阜大学)	食品物性工学	食品分散系の相変化・形態変化を利用した食品の 高付加価値化に関する研究
物	生物資源利用学	◎ 西津貴久 (岐阜大学)	食品加工学	食品製造プロセスの工学的解析, 食品物性, 食品 化学に関わる基礎的研究
		○勝野 那嘉子 (岐阜大学)	食 成 分 化 学	食に関する成分の化学的および生化学的変化に 関する研究
資		○ 矢 部 富 雄 (岐阜大学)	糖質生化学	糖鎖構造と機能に関する研究
		◎ 鈴 木 史 朗 (岐阜大学)	バイオマス材料化学	バイオマスの化学的構造、形成および利用に関す る研究
源		小 堀 光 (静岡大学)	木質バイオマス料学	木質バイオマスの有効利用およびそれらの非破壊 評価手法に関する研究
		○ 山 内 恒 生 (岐阜大学)	天然物機能化学	天然由来有効成分の探索と生物活性メカニズムの 解明
科		○ 今 泉 鉄 平 (岐阜大学)	農産食品プロセス工学	農産物組織状態の解析と制御技術に関する研究
		(*)安藤泰雅 (岐阜大学)	農産食品加工学	農産食品の組織構造解析と加工プロセスの高度化 に関する研究
学		○ 石 田 秀 治 (岐阜大学)	糖 鎖 工 学	生理活性複合糖質の化学・生物学的研究
,	スマートマテリア ル科学	安 藤 弘 宗 (岐阜大学)	糖鎖関連化学	糖鎖関連分子の化学合成と機能解明および医薬 への応用
		○ 今 村 彰 宏(岐阜大学)	応用糖質化学	生理活性複合糖質および高機能化糖関連分子の 有機化学的創製と応用研究
		○ 上 野 義 仁 (岐阜大学)	核 酸 化 学	機能性核酸の化学合成と工学及び医学的応用
		鈴 木 健 一 (岐阜大学)	細胞生物物理学	1分子観察による細胞膜構造と分子情報伝達機構 の研究
		⁽ ** ⁾ 亀 山 昭 彦 (岐阜大学)	糖 鎖 解 析 学	糖鎖の構造機能解析と医薬および診断薬への応用

^(*)客員准教授であり、主な研究活動の場は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門 (連携機関)である。

^(**) 客員教授であり、主な研究活動の場は国立研究開発法人産業技術総合研究所(連携機関)である。

^{◎:}国際連携食品科学技術専攻の指導資格も兼ねる。

古小	古 人 誰 应	主指導教員	教	育 研 究 分 野
専攻	連合講座	氏名(所属)	名 称	内容
		中川寅(岐阜大学)	応 用 生 化 学	酵素・タンパク質の生化学・分子細胞生物学、並び にその応用
		◎ 岩橋 均 (岐阜大学)	応用微生物学	微生物および高等生物ストレス応答機構の解明と 利用
		中 村 浩 平 (岐阜大学)	微生物分子生態学	嫌気性微生物の生態とその応用
		小 川 直 人 (静岡大学)	環境微生物学	環境微生物の機能の解明
生		◎ 清 水 将 文 (岐阜大学)	植物病理学	有用微生物を利用した植物病害の生物防除および 植物生長の制御
		◎中 川 智 行 (岐阜大学)	食品栄養学	酵母の分子育種と細胞機能の解明、新規食品産業 用酵素の開発
物		◎ 島 田 昌 也 (岐阜大学)	分 子 栄 養 学	栄養素や食品成分による代謝性疾患(脂肪肝,糖 尿病など)の制御
		◎海老原 章郎 (岐阜大学) 酵 素 科 学	酵素の構造と機能に関する研究	
資		木 塚 康 彦 (岐阜大学)	糖鎖生化学	糖鎖の生理機能と疾患関連性の解明のための生化 学的研究
		◎ 長 岡 利 (岐阜大学)	機能性食品学	食品成分の生体調節機能に関する生化学・分子生物学
源	生物機能制御学	一 家 崇 志 (静岡大学)	植物栄養生理学	非生物的ストレス耐性機構に関する植物栄養学的 研究
10.10		◎ 小 山 博 之 (岐阜大学)	植物細胞工学	不良土壌耐性機構の分子生理学と分子育種に関する研究
61		○ 山 本 義 治 (岐阜大学)	植物ゲノム科学	植物の環境適応機構とその進化
科		◎小林 佑理子 (岐阜大学)	植物分子栄養学	植物の栄養環境・有害元素に対する応答・耐性の 分子機構
		西 村 直 道 (静岡大学)	食品栄養化学	食による大腸発酵環境の変動を介した宿主生理応 答の解明
学		北 口 公 司 (岐阜大学)	食品免疫学	食品成分による免疫調節機構に関する研究
		藤 田 盛 久 (岐阜大学)	システム糖鎖生物学	糖鎖・糖タンパク質の生合成、輸送および分解機構 の解明と制御
		⁽ ** ⁾ 堀 江 祐 範 (岐阜大学)	微生物機能制御	乳酸菌の環境及び生物との相互作用の解明と利用
		(**)千葉靖典 (岐阜大学)	微生物糖科学	微生物を活用した物質と糖タンパク質の生産に関する研究
		⁽ ** ⁾ 舘野浩章 (岐阜大学)	糖 鎖 工 学	糖鎖工学・レクチン工学に関する研究

(**) 客員教授であり、主な研究活動の場は国立研究開発法人産業技術総合研究所(連携機関)である。

^{◎:} 国際連携食品科学技術専攻の指導資格も兼ねる。

#	T/r	主指導教員			教	育	研	究	分	野	
専	攻	氏名(所属)	名		称			内		容	
国際連携食	品科学技術	柳 瀬 笑 子 (岐阜大学)	生物	有 機	化学	ポリフュ に関す			離構造	決定とその	科学反応性

Fields of Instruction and Research Themes of Professors

Course	Major Chair	PROFESSOR		Field of Instruction and Research
Course	[Rengo-Koza]	TROTESSOR	Research Field	Research Theme
		YAMADA, Kunio	Floricultural	Plant physiological study on improvement of quality
		(Gifu University)	Science	and productivity of ornamental plants
		MATSUBARA, Yoichi (Gifu University)	Vegetable Crop Science	Biological and physiological study and the application to sustainable culture and environmental stress tolerance in vegetable crops
		SUZUKI, Katsumi (Shizuoka University)	Protected Horticulture and Vegetable Crop Science	The study of suitable and high-quality vegetable production in protected horticulture
		KIRIIWA, Yoshikazu (Shizuoka University)	Vegetable Crop Science	The study on physiological response to abiotic stress in vegetable crop production
		YAHATA, Masaki (Shizuoka University)	Pomology	Study on physiology of fruit set and Development of high quality fruit tree using chromosome engineering technique
		MATSUMOTO, Kazuhiro (Shizuoka University)	Horticultural Science	The physiological and ecological studies on horticultural crops for the production of high quality agricultural products
	Plant Production & Management	NAKATSUKA, Takashi (Shizuoka University)	Floricultural Science	Molecular biology of floricultural plants
Science of		SHIMAZU, Teruaki (Gifu University)	Environmental Control in Plant Production Systems	Development of environmental control techniques for plant production and its application to plant science
Biological Production		OBA, Shinya (Gifu University)	Plant Growth Diagnostics	Analysis of economical plants by genetic and eco- physiological aspects to develop the technology for plant production
		YAMANE, Kyoko		Search, collecting and evaluation of plant genetic
		(Gifu University)	Breeding	resources
			Postharvest Engineering	Development of the quality preservation theory and technology in agricultural produces
		KATO, Masaya	Postharvest	Physiology, biochemistry, and molecular biology in
		(Shizuoka University)	Physiology	postharvest horticultural crops
		LEE, Younmi	Agricultural	A theoretical and empirical study on regional
		(Gifu University)	Economics	agricultural economy and agricultural policy
		SHIBAGAKI, Hiroshi (Shizuoka University)	Agricultural Management and Economics	Theoretical and positive studies on agricultural cooperatives and agricultural finance
		KAJIKAWA,Chikako (Gifu University)	Agricultural Economics	Econometric research on supply-demand structure of agricultural products and structure of the food industry
		THAMMAWONG, Manasikan (Gifu University)	Postharvest Physiology	Study of the quality change mechanism in food and the development of quality maintenance technology
		(*) TSUTA, Mizuki (Gifu University)	Non-destructive Evaluation Technology	Food and agricultural products evaluation by light spectroscopy and data mining

^(*) indicates guest professors from the National Agriculture and Food Research Organization (NARO). Please note that in the case you prefer to study under the supervision of them, you will conduct research mainly at the Institute of Food Research, NARO.

 $[\]ensuremath{{\odot}}$: Professor who can also teach International Joint Ph.D. Program in Food Science & Technology.

C	Major Chair	DD OFFICOD		Field of Instruction and Research
Course	[Rengo-Koza]	PROFESSOR	Research Field	Research Theme
		KUSUDA,Satoshi (Gifu University)	Reproductive Sciences in Animal Conservation	Reproductive physiology and ecology in endangered animals and development of "Zoo Sciences"
		SASANAMI, Tomohiro (Shizuoka University)	Molecular Cell Biology	The studies on the molecular mechanism of egg envelop formation and fertilization in birds
		YOGO, Keiichiro (Shizuoka University)	Reproductive Biology	Molecular and cellular biology of development and differentiation of mammalian germ cells
		IWASAWA, Atsushi (Gifu University)	Chemical Endocrinology	Biochemistry of animal endocrine system and metabolism
Science of Biological Production	Animal Resource Production	MATSUMURA, Shuichi (Gifu University)	Animal Genetics	Studies on evolutionary history and genetic diversity of animals
		YAYOTA, Masato (Gifu University)	Animal Nutritional Ecology	Nutritional ecology of ruminants and application to animal production
		YAMAMOTO, Akemi (Gifu University)	Animal Nutrition	Nutrients requirement and nutritional evaluation for feedstuffs in monogastric animal
		NINOMIYA, Shigeru (Gifu University)	Animal Welfare and Behaviour	Applied Ethology and animal welfare
		KOYA, Yasunori (Gifu University)	Animal Reproductive Biology	Studies on evolution of reproductive mode in fishes using functional morphology of gonad and reproductive behavior, and their application for aquaculture
		HIRAMATSU, Ken (Gifu University)	Environmental Hydraulics	Management of water environment and aquatic ecosystem in rural area
		ONISHI, Takeo (Gifu University)	Hydrology	Understanding the mechanism of water and material cycles and evaluation of the anthropogenic impact on these cycles
		ITO, Kengo (Gifu University)	Aquatic Environment	Management of environment and ecosystem conservation in paddy field
Science of Biological	Agricultural& Environmental	NISHIMURA, Shinichi (Gifu University)	Engineering for Agricultural Structures	Safety and effective use of agricultural structures for water supply
Environment	Engineering	NISHIYAMA, Tatsuro (Gifu University)	Engineering Mechanics of Structures for Irrigation	Mechanical analysis of dams for irrigation
		IMAIZUMI, Fumitoshi (Shizuoka University)	Erosion Control Engineering	Management of sediment and water in mountainous catchments
		KATSUTA, Nagayoshi (Gifu University	Earth's Environmental System	Decoding response of terrestrial environment to global changes recorded in lacustrine sediment

Course	Major Chair PROFESSOR		Field of Instruction and Research	
Course	[Rengo-Koza]	PROFESSOR	Research Field	Research Theme
		MATSUI, Tsutomu (Gifu University)	Crop Production Science	Sustainable crop production
		TSUCHIDA, Koji (Gifu University)	Insect Ecology	Studies on the genetical variation within insect populations
		MUKAI, Takahiko (Gifu University)	Biogeography	The studies of the biodiversity in space and through time, and of the conservation methods
		TAGAMI, Yohsuke (Shizuoka University)	Applied Entomology	Development of insect pest control technique using insect-symbiont relationship
		KASAI, Atsushi (Shizuoka University)	Biological Control	Studies of interspecies interactions on pest management
		HORIIKE, Tokumasa (Shizuoka University)	Molecular Evolution	Molecular evolution using genomic information
		⊚SUGA, Haruhisa (Gifu University)	Molecular Plant Pathology	Studies on evolution, ecology and pathogenicity of plant pathogens
		YAMASHITA, Masayuki (Shizuoka University)	Ecological Genetics	Invasion ecology of exotic plants and weeds
		INAGAKI, Hidehiro (Shizuoka University)	Agroecology, Weed science	Studies on assessment of biodiversity in rural area and ecological management of weed
		KAWAKUBO, Nobumitsu (Gifu University)	Plant Evolutionary Ecology	Evolutionary Studies on Flowering and Pollination
Science of Biological	Management of	OHTSUKA, Toshiyuki (Gifu University)	Ecosystem Ecology	Carbon cycling and carbon sequestration in terrestrial ecosystems
Environment	Biological Environment	IIO, Atsuhiro (Shizuoka University)	Forest Eco-physiology	Eco-physiological process of canopy photosynthesis and transpiration in forest ecosystems
		MURAOKA, Hiroyuki (Gifu University)	Ecosystem Physiology	Ecophysiological study from whole-plant to landscape in terrestrial ecosystems
		WEI, Yongfen (Gifu University)	Environmental Monitoring	Monitoring and assessment of mass circulation in basin environment
		ANDO, Masaki (Gifu University)	Management of Forest and Wildlife	Studies on biological interactions in forest ecology and wildlife management
		TOMITA,Ryoto (Shizuoka University)	Environmental Sociology	Consideration of social thought and theory for sustainable and adaptive governance based on social research.
		IYAKE, Takashi (Gifu University)	Evolutionary Ecology	Interaction between plants and animals and concomitant evolution of traits
		SAITOH, Taku (Gifu University)	Environmental Biophysics	Studies on carbon, water and heat cycles in terrestrial ecosystems
		MORIBE, Junji (Gifu University)	Wildlife Resources	Conservation and sustainable use of wildlife
		HIROTA, Isao (Gifu University)	Regional Resource Ecology	Studies on agroecosystem and natural resource in Southeast Asia and Japan
		ANAKA,Takashi S.T. (Gifu University)	Agronomy	Development of crop management practices that can enhance crop productivity
		OKAMOTO,Tomoko (Gifu University)	Chemical Ecology	The ecological role of chemical compounds mediating biological interaction

 $[\]odot$: Professor who can also teach International Joint Ph.D. Program in Food Science & Technology.

Course Major Chair PROFESSOR			Field of Instruction and Research	
Course	[Rengo-Koza]	PROFESSOR	Research Field	Research Theme
		©MITSUNAGA, Tohru (Gifu University)	Phytochemistry	Structural analysis and functional elucidation of plant secondary metabolites
		KAWAI, Shingo (Shizuoka University)	Lignin Biochemistry	Biosynthesis and biodegradation of lignin and related compounds
		YAMADA, Masaaki (Shizuoka University)	Polymer Composite Material	The development and performance evaluation of new wood adhesives
		KOJIMA, Yoichi (Shizuoka University)	Wood Biomass Science	Studies on the effective use of woody biomass
		KOBAYASHI, Kenji (Shizuoka University)	Timber Structures	Studies on seismic performances of timber structures
	Utilization	IWAMOTO, Satoshi (Gifu University)	Physical Chemistry and Engineering for Food Materials	Physicochemical studies of phase and/or glass transitions of food colloids for high value-added food production
	of Biological Resources		Food Process Engineering and Chemistry	Research in food physics, food chemistry, and engineering analysis of food process operations
		⊚KATSUNO, Nakako (Gifu University)	Food Chemistry and Biochemistry	Study of the chemical and biochemical change in food
		⊚YABE, Tomio (Gifu University)	Carbohydrate Biochemistry	Biochemistry and molecular cell biology of glycans for molecular structure and biological functions
Science of Biological		⊚SUZUKI, Shiro (Gifu University)	Biomass Chemistry	Research of chemical structure, formation, and utilization of biomass
Resources		KOBORI, Hikaru (Shizuoka University)	Wood Biomass Science	Utilization of wood biomass and development of nondestructive measurement
		⊚YAMAUCHI, Kosei (Gifu University)	Natural Product Chemistry	Research of active ingredients in natural products and mechanisms of biological activity
		⊚IMAIZUMI, Teppei (Gifu University)	Postharvest Processing	Study on optimization of post-harvest processes for fruits and vegetables
		(*)ANDO, Yasumasa (Gifu University)	Food Process Engineering	Studies on process development of agricultural products for high-quality foods
		⊚ISHIDA, Hideharu (Gifu University)	Glycotechnology	Chemical biology of bioactive glycoconjugates
		ANDO, Hiromune (Gifu University)	Chemistry Featuring Carbohydrates	Molecular biology-oriented chemical synthesis of carbohydrates and application of their functions to medicinal chemistry
	Smart Material Science	⊚IMAMURA, Akihiro (Gifu University)	Applied Carbohydrate Chemistry	Chemical synthesis of biologically-relevant carbohydrate molecules and functional glyco-probes
		⊚UENO, Yoshihito (Gifu University)	Nucleic Acid Chemistry	Design and chemical synthesis of functional nucleic acids for gene therapy and genetic diagnosis
		SUZUKI, Kenichi (Gifu University)	Cell Biophysics	Studies on cell membrane structures and signal transduction by single-molecule imaging
		^(**) KAMEYAMA, Akihiko (Gifu University)	Analytical Glycotechnology	Structure-function analysis of glycans and its applications to pharmaceuticals including products for medical diagnosis

^(*) indicates guest professors from the National Agriculture and Food Research Organization (NARO). Please note that in the case you prefer to study under the supervision of them, you will conduct research mainly at the Institute of Food Research, NARO.

^(**) indicates guest professors from the National Institute of Advanced Industrial Science and Technology(AIST). Please note that in the case you prefer to study under the supervision of them, you will conduct research mainly at the AIST.

 $[\]odot$: Professor who can also teach International Joint Ph.D. Program in Food Science & Technology.

Course	Major Chair	PROFESSOR	Field of Instruction and Research	
Course	[Rengo-Koza]	TROFESSOR	Research Field	Research Theme
		NAKAGAWA, Tsutomu (Gifu University) ©IWAHASHI, Hitoshi (Gifu University)	Applied Biochemistry Applied Microbiology	Biochemistry and molecular cell biology of enzymes and proteins, and their application Elucidation and utilization of stress response from microbe to higher organisms
		NAKAMURA, Kohei (Gifu University)	Microbial Molecular Ecology	Fundamental and applied microbial ecology in anaerobic environments
		OGAWA, Naoto (Shizuoka University)	Environmental Microbiology	Analysis of the function of environmental microbes
		⊚SHIMIZU, Masafumi (Gifu University)	Plant Pathology	Studies on plant probiotics and plant-microbe interactions in the rhizosphere
		⊙NAKAGAWA, Tomoyuki (Gifu University)	Food and Nutritional Biochemistry	Molecular cell biology and molecular breeding of yeasts, Development of industrial enzymes
		⊚SHIMADA, Masaya (Gifu University)	Molecular Nutrition	Regulation of metabolic diseases (e.g., fatty liver) by nutrients and food components
		⊚EBIHARA, Akio (Gifu University)	Enzyme Science	Studies on structure and function of enzyme
	Regulation of	KIZUKA, Yasuhiko (Gifu University)	Glyco- biochemistry	Biochemical studies on physiological functions and disease involvement of glycans
Science of Biological		◎NAGAOKA, Satoshi (Gifu University)	Functional Food Science	Biochemical and molecular biological studies on the physiological functions of food components
Resources	Biological Functions	IKKA, Takashi (Shizuoka University)	Plant Nutritional Physiology	Plant nutritional study on abiotic stress tolerance mechanism
		⊚KOYAMA, Hiroyuki (Gifu University)	Plant Cell Technology	Molecular physiology and molecular breeding of acid soil tolerant plants
		⊚YAMAMOTO, Yoshiharu Y. (Gifu University)	Plant Genome Biology	Study of environmental adaptation and evolution in plants
		©KOBAYASHI, Yuriko (Gifu University)	Molecular Plant Nutrition	Molecular mechanisms of plant response and tolerance to nutrition and toxic elements
		NISHIMURA,Naomichi (Shizuoka University)	Nutritional Biochemistry	Studies on the physiological effects of food components via changed colonic fermentation
		KITAGUCHI, Kohji (Gifu University)	Nutritional Immunology	Studies on the immunomodulation by food ingredients
		FUJITA, Morihisa (Gifu University)	Systems Glycobiology	Studies on metabolism and transport of glycans and glycoproteins
		^(**) HORIE, Masanori (Gifu University)	Microorganism Function Control	Application and evaluation of interaction of lactic acid bacteria and animals
		(**)CHIBA, Yasunori (Gifu University)	Microbial Glycobiology	Production technologies of glycan-engineered proteins and materials by microbes
		(***)TATENO, Hiroaki (Gifu University)	Glycan Engineering	Researches of glycan and lectin engineering

^(**) indicates guest professors from the National Institute of Advanced Industrial Science and Technology(AIST). Please note that in the case you prefer to study under the supervision of them, you will conduct research mainly at the AIST.

①: Professor who can also teach International Joint Ph.D. Program in Food Science & Technology.

Covers	PROFESSOR	Field of Instruction and Research			
Course	PROFESSOR	Research Field	Research Theme		
International Joint Ph.D. Program in Food Science &Technology	YANASE, Emiko (Gifu University)	Bioorganic Chemistry	Structural analysis and chemical study of plant polyphenols		

指導教員となり得る者の教育研究分野一覧

市水	`本 人 謙 应	指導教員		教 育 研 究 分 野
専攻	連合講座	氏名(所属)	名 称	内容
		落合正樹(岐阜大学)	花き園芸学	花きでの有用形質の分子生物学的解析と育種技術の開発
生	植物生産管理学	向 井 啓 雄 (静岡大学)	果樹園芸学	果実成熟,果実特性,砂じょう培養
物	他初生座官连子	富 永 晃 好 (静岡大学)	園 芸 生 理 学	園芸作物の突然変異体育種、生産現地課題を基にした生 理学的研究
生		馬 剛 (静岡大学)	青果物機能学	果実・野菜の栄養成分や機能性成分の蓄積機構の解明
産		日 巻 武 裕 (岐阜大学)	動物発生工学	発生工学技術の高度化および高付加価値動物の生産に 関する研究
科		只 野 亮 (岐阜大学)	動物ゲノム多様性 学	家畜および野生動物の遺伝的多様性の評価に関する研究
	動物生産利用学	山 本 裕 之 (静岡大学)	健 康 科 学	予防医学的研究及び肥満に関する研究
学		大塚剛司(岐阜大学)	動物生産管理学	動物の飼育環境と生産性に関する研究
		鳥 山 優 (静岡大学)	細胞生物学	ウニ卵細胞の分裂機構に関する研究

専攻	連合講座	指導教員		教 育 研 究 分 野
导权	度 1 神)生	氏名(所属)	名 称	内容
生		西 村 直 正 (岐阜大学)	土壤環境工学	土壌環境の管理
	環境整備学	牛 山 素 行 (静岡大学)	災害情報学	日本の風水害による人的被害の解析
物	塚 堤 锥 开	江 草 智 弘 (静岡大学)	森林水文学	森林流域における水・物質循環プロセスに関する研究
		髙 山 翔 揮 (静岡大学)	砂 防 学	山地流域で生じる土砂移動現象の解明, 土砂災害を軽減 するための技術開発
環		須 山 知 香 (岐阜大学)	植物系統分類学/ 理科教育/博物館	東海地方を主とした種子植物の種分化と分布/小・中学校 理科の教材・教授法/博物館の資料・展示・教育、博学教 連携
1 de		加 藤 正 吾 (岐阜大学)	森林生態学	つる植物、着生植物、半寄生植物の生態に関する研究
境	生物環境管理学	片 畑 伸 一 郎 (岐阜大学)	樹木生理生態学	樹木の環境応答と順化機構に関する研究
科	工物來先音程子	楢 本 正 明 (静岡大学)	森林生理生態学	樹木の環境応答
17		南雲俊之(静岡大学)	土壤圏科学	農業生態系の栄養塩循環,炭化物・堆肥等資材の利活 用,水田土壌のリン動態
学		日 惠 野 綾 香 (岐阜大学)	菌類生態学	農地周辺環境に生息する植物病原菌の分類・生態に関する研究

±1.	* * * *	指導教員	教	女 育 研 究 分 野
専攻	連合講座	氏名(所属)	名 称	内 容
		久 保 和 弘 (岐阜大学)	栄養生化学食	₹品機能と疾病予防に関する研究
生		柴 田 奈 緒 美 (岐阜大学)	調理科学熱	株移動に伴う食品の品質変化の定量ならびに予測
		稲 垣 瑞 穂 (岐阜大学)	食品素材化学食	は品素材を用いた腸内環境の制御とその利用
物	生物資源利用学	渡 邊 拡 (静岡大学)	室内環境学室	E内空気質に関する研究
	工物員你们用于	田 中 孝 (静岡大学)	岛分子很会环料字 I	x材物理および乾燥、木質材料、木材接着、X線検査技術 上関する研究
資		米 田 夕 子 (静岡大学)	木 材 化 学多	5糖類および配糖体類の化学構造と機能解析
		小 川 敬 多 (静岡大学)	木材強度学構	背造用木材および木質接合部の強度特性に解明
源		(*)渡邊 高志 (岐阜大学)	食品流通工学農	と産物の加工・貯蔵・輸送特性解析に関する研究
		橋 本 智 裕 (岐阜大学)	計 算 化 学 分	子軌道法を用いた物質の化学的性質に関する研究
科		和 佐 田 裕 昭 (岐阜大学)	計 第 化 学量	量子化学的方法による化学物質の性質と反応性の研究
	スマートマテリア ル科学	萩 原 宏 明 (岐阜大学)		E体系に倣った分子認識・自己集合に基づく超分子錯体 D創製と機能発現
学		田中秀則(岐阜大学)	生体関連化学生	E理活性分子の合成とケミカルバイオロジー
		吉松三博 (岐阜大学)	生命 有 磔 化 乞二	「規な合成法を利用した生理活性物質の創製とその生体 後能

(*)客員准教授であり、主な研究活動の場は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究 部門(連携機関)である。

専攻	連合講座	指導教員		教 育 研 究 分 野
42	产 口 時 庄	氏名(所属)	名 称	内容
		岩 間 智 徳 (岐阜大学)	微生物機能学	細菌の化学感覚受容体の構造と機能
		島 田 敦 広 (岐阜大学)	酵 素 科 学	タンパク質分子の立体構造に基づいた化学反応機構の解 明
生		鮫 島 玲 子 (静岡大学)	土壤微生物学	土壌環境における窒素化合物の変換に関わる微生物の生 理的、生態的研究
物		橋 本 美 涼 (岐阜大学)	動物生化学	脳発達・機能維持の仕組みを遺伝子改変マウスの解析で 明らかにする研究
資		山 下 寛 人 (静岡大学)	植物機能制御学	が 以情報や生体生理情報を活用した植物機能制御に関する研究
源	生物機能制御学	中 嶋 和 紀 (岐阜大学)	糖鎖分析化学	糖鎖の生理機能と代謝関連を解明するための糖鎖分析技 術の高度化研究
A 学		中 川 香 澄 (岐阜大学)	食 品 発 酵 学	微生物の酸化還元メカニズムの解明・発酵食品への応用
		(**)鴫 直樹 (岐阜大学)	分子生物学·生化学	タンパク質合成系におけるRNA化学修飾の役割の解明と応 用
		(**) 横尾岳彦 (岐阜大学)	遺 伝 学 分 子 生 物 学	酵母を用いた異種タンパク質生産とその生物学的理解
		(**) 石 井 則 行 (岐阜大学)	応用生物物理学	細胞外膜小胞エキソソームの機能解明とクライオ電子顕微 鏡法による生物物理学

^(**) 客員准教授であり、主な研究活動の場は国立研究開発法人産業技術総合研究所(連携機関)である。

Fields of Instruction and Research Themes of Professors

C	Major Chair [Rengo-Koza]	DDOEESCOD		Field of Instruction and Research
Course		PROFESSOR	Research Field	Research Theme
		OCHIAI,Masaki (Gifu University)	Floricultural Science	Molecular biology and development of breeding technology in ornamental plants
	Plant	MUKAI,Hiroo (Shizuoka University)	Pomology	Fruit maturation, Fruit characteristics, in vitro culture of juice vesicle
	Production &	TOMINAGA, Akiyoshi (Shizuoka University)	Horticaltural Physiology	Mutation breeding of horticultural crops, Physiological studies based on problems of agricultural field
	Management	MA Gang (Shizuoka University)	Functional Properties of Fruit and Vegetables after Harvest	Elucidation of the accumulation mechanism of nutritional and functional compounds in fruit and vegetables after harvest
Science of Biological Production	Animal Resource Production	HIMAKI, Takehiro (Gifu University)	Developmental Engineering	Studies on improvement of developmental engineering technology and production of high value added animals
		TADANO, Ryo (Gifu University)	Animal Genome Diversity	Study on Genetic Diversity of Domestic and Wild Animals
		YAMAMOTO, Hiroyuki (Shizuoka University)	Health Science	Studies on preventive medicine and obesity research
		OHTSUKA, Tsuyoshi (Gifu University)	Animal productive management	Studies on various rearing environment and productivity in animals
		TORIYAMA, Masaru (Shizuoka University)	Cell Biology	The studies on the mechanism of sea urchin egg mitosis

	Major Chair DDOFESSOD			Field of Instruction and Research
Course	[Rengo-Koza]	PROFESSOR	Research Field	Research Theme
		NISHIMURA, Naomasa (Gifu University)	Engineering for Soil Environment	Management of Soil Environment
	Agricultural & Environmental	USHIYAMA,Motoyuki (Shizuoka University)	Disaster Information Studies	Analysis of human damage caused by heavy rainfall disasters in Japan
	Engineering	EGUSA, Tomohiro (Shizuoka University)	Forest Hydrology	Hydrologic and biogeochemical cycles in forest catchments
		TAKAYAMA, Shoki (Shizuoka University)	Erosion Control Engineering	Study on sediment transport in mountainous catchment
Science of Biological Environment		SUYAMA,Chika (Gifu University)	Plant phylotaxonomy / Primary & junior high school science education Museum	Flora and speciation of seed plants around the Tokai district/teaching methods and materials for primary & junior high school science education/collection, exhibition and education in museum; collaboration between school, museum and faculty of education
	Management of Biological Environment	KATO,Shogo (Gifu University)	Forest Ecology	Spatial pattern and process in woody plants (Hemiparasitic plant, understoryplant, and Liana) Positive and negative phototropism of root climber
		KATAHATA,Shin ichiro (Gifu University)	Tree Ecophysiology	Studies on environmental response and acclimation in woody plants
		NARAMOTO,Masaaki (Shizuoka University)	Forest ecophysiology	Tree ecophysiological responses to environmental changes
		NAGUMO, Toshiyuki (Shizuoka University)	Soil Science	Nutrient cycling in agroecosystem, Use of soil amendments, Phosphorus dynamics in paddy soil
		HIENO, Ayaka (Gifu University)	Mycological Ecology	Study on taxonomy and ecology of plant pathogen inhabiting around farmland

_	Maior Chair	Major Chair PROFESSOR		Field of Instruction and Research
Course	[Rengo-Koza]	PROFESSOR	Research Field	Research Theme
		KUBO,Kazuhiro (Gifu University)	Nutritional biochemistry	Study on food function and disease prevention
		SHIBATA,Naomi (Gifu University)	Cookery Science	Quantitative and prediction of food quality based on heat transfer
		INAGAKI,Mizuho (Gifu University)	Food material chemistry	Study on intestinal environmental control using food material
	Utilization	WATANABE, Hiromu (Shizuoka University)	Indoor Environment	Indoor air quality (volatile organic compounds (VOCs) in indoor air)
	of Biological Resources	TANAKA Takashi (Shizuoka University)	Polymer Composite Material	Wood physics and drying, wood-based materials, wood adhesives, sensing technologies using X-rays
		YONEDA, Yuko (Shizuoka University)	Wood Chemistry	Analysis of chemical structures and properties of polysaccharides and glycosides
Science of		OGAWA,Keita (Shizuoka University)	Strengh Property of Wood	Strength properties of structural wood, wood-based materials,,and wooden joints
Biological Resources		(*)WATANABE,Takashi (Gifu University)	Food distribution engineering	Quality changes of agricultural products by processing, storage and transportation
		HASHIMOTO,Tomohiro (Gifu University)	Computational Chemistry	Studies on chemical properties of substances with molecular orbital methods
		WASADA,Hiroaki (Gifu University)	Computational Chemistry	Computational study of chemical compound properties and chemical reactions using computational quantum chemical methods.
	Smart Material Science	HAGIWARA,Hiroaki (Gifu University)	Supramolecular Coordination Chemistry for Functional Materials	Design and synthesis of functional supramolecular coordination compounds through self-assembly and molecular recognition inspired by biological molecular systems
		TANAKA, Hidenori (Gifu University)	Bio-related Chemistry	Synthesis and chemical biology of biologically active molecules
		YOSHIMATSU, Mitsuhiro (Gifu University)	Life Science Organic Chemistry	Synthesis of bioactive compounds using a new methodology and their biological functions

^(*) indicates guest professors from the National Agriculture and Food Research Organization (NARO). Please note that in the case you prefer to study under the supervision of them, you will conduct research mainly at the Institute of Food Research, NARO.

Course	Major Chair [Rengo-Koza]	PROFESSOR	Field of Instruction and Research		
			Research Field	Research Theme	
Science of Biological Resources	Regulation of Biological Functions	IWAMA, Tomonori (Gifu University)	Microbial Biochemistry	Structure and function of bacterial chemoreceptors	
		SHIMADA,Atsuhiro (Gifu University)	Enzyme science	Elucidation of the chemical reaction driven by the protein based on its 3D structures	
		SAMESHIMA,Reiko (Shizuoka University)	Soil Microbiology	Physiological and ecological study of microbes related to the transformation of nitrogen compounds in soil environments	
		HASHIMOTO, Misuzu (Gifu University)	Animal Biochemistry	Study on the mechanisms of brain development and function by analysis of genetically modified mice.	
		YAMASHITA, Hiroto (Shizuoka University)	Plant Functional Regulation	Studies on the plant functional regulation based on genome and physiological information	
		NAKAJIMA, Kazuki (Gifu University)	Glycoanalytical chemistry	Studies of analytical technologies for understanding biological function and metabolic crosstalk of glycans	
		NAKAGAWA, Kasumi (Gifu University)	Microbiology of Fermented Foods	Studies on redox mechanisms of microorganisms and their application	
		(**)SHIGI,Naoki (Gifu University)	Molecular Biology, Biological Chemistry	Functional characterization of post-transcriptional modification of RNA	
		(**)YOKO-O,Takehiko (Gifu University)	Genetics, molecular biology	Heterologous protein production in yeasts and its biology	
		(**)ISHII,Noriyuki (Gifu University)	Applied biophysics	Biophysical investigation of extracellular membrane vesicles by cryogenic electron microscopy	

^(**) indicates guest professors from the National Institute of Advanced Industrial Science and Technology(AIST). Please note that in the case you prefer to study under the supervision of them, you will conduct research mainly at the AIST.